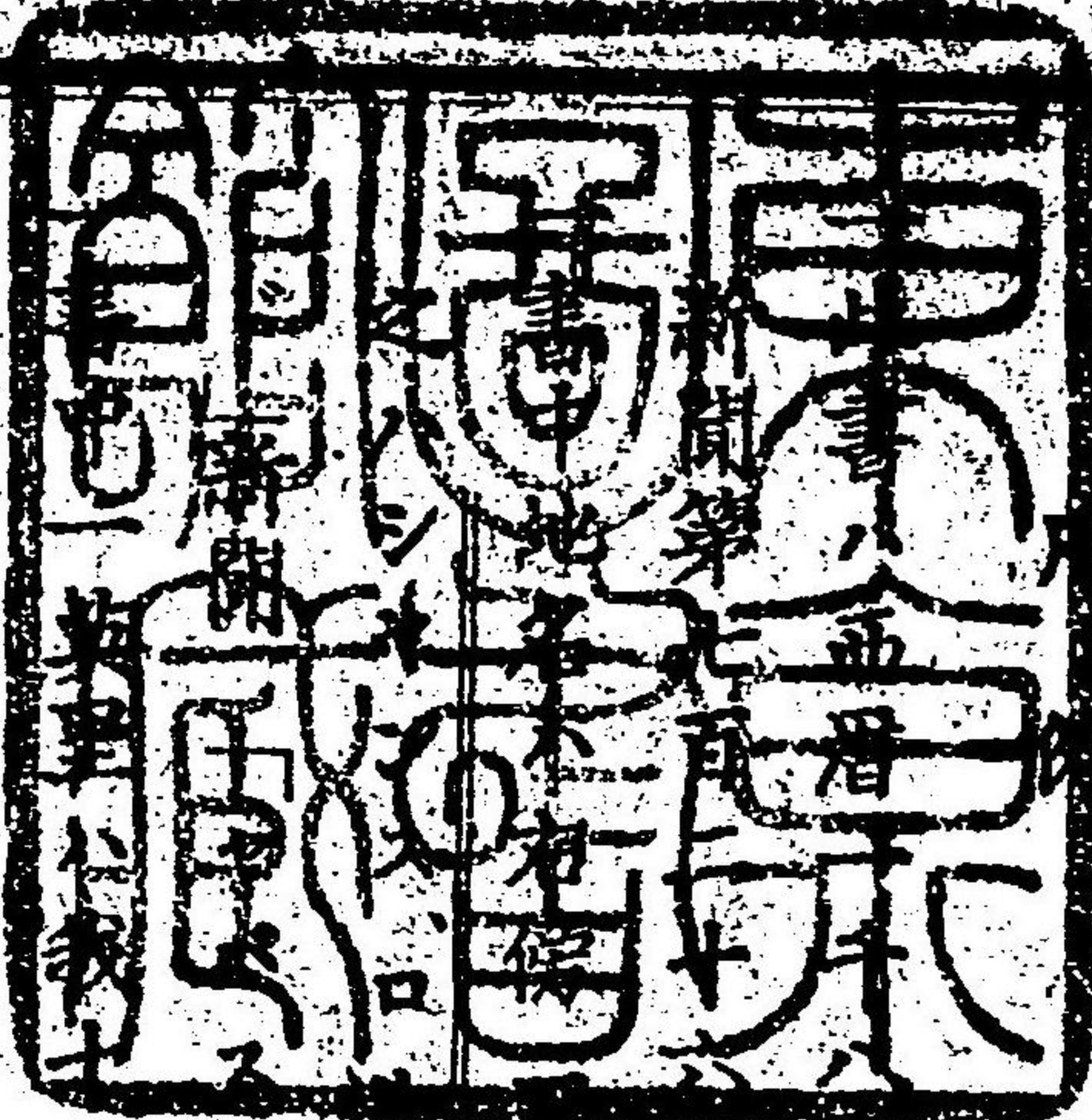


夜間作戰論



百八十九年明治二十二年佛國陸軍參謀局第二課ニ於テ編纂シタル外國兵事  
號七百二十九號及ヒ七百三十一號ヨリ抄譯ス  
雙柱ヲ劃シ人名ハ右傍ニ單柱ヲ劃シ物名ハ「」ヲ以テ之レヲ包ム例  
スビール 佛將マルモン 「ムクタルバシヤ」堡 「インワリ」  
「トール」聯隊等ノ如シ

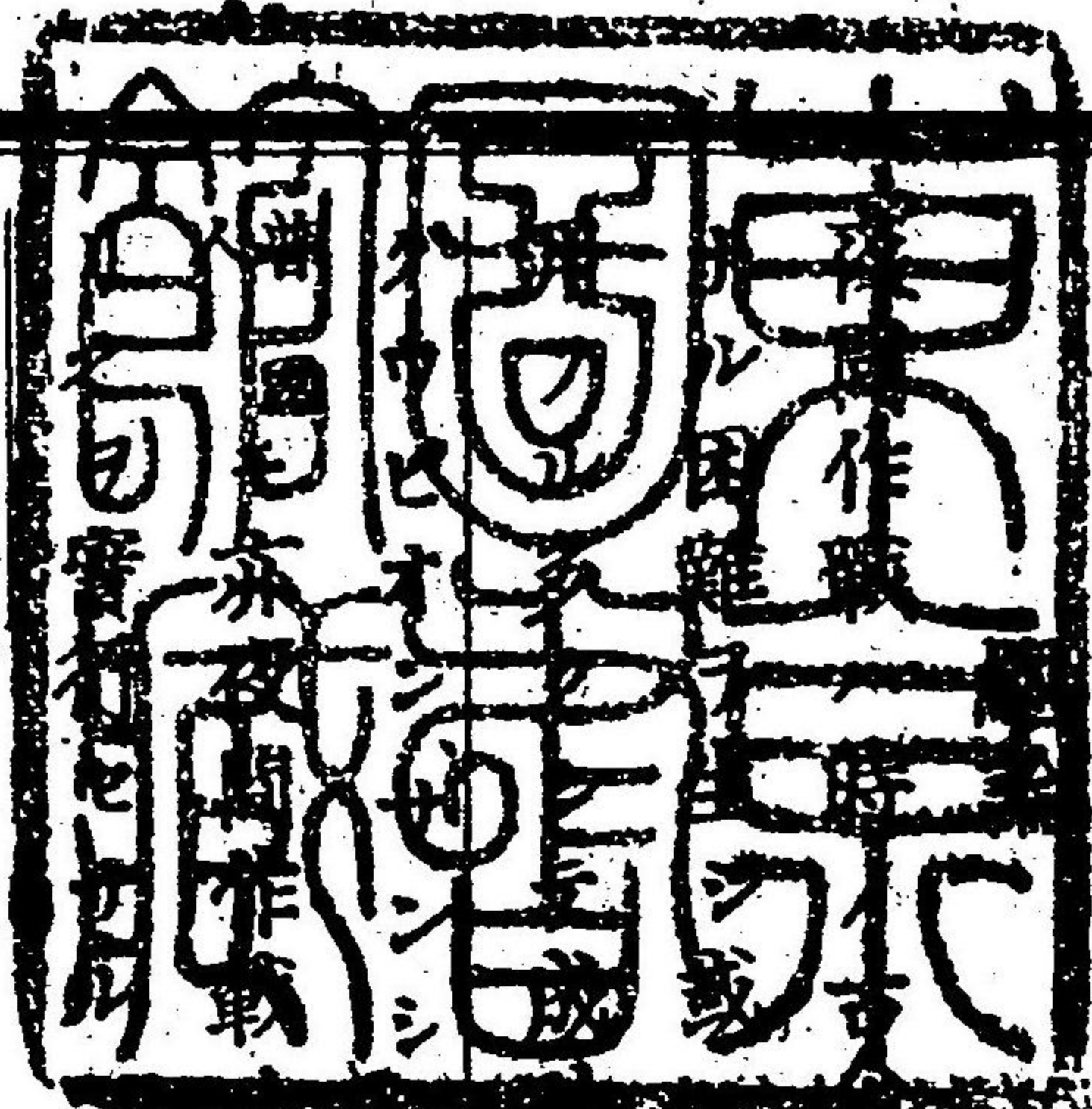
一書中最初ニ某國ノ將官、佐官、尉官、及ヒ某國ノ其新聞ト一々詳記シ後某國ノ文字ヲ省  
略スルハ其繁雜ナルヲ以テナリ



40-82 No 5259/23

夜間作戰論

陸軍歩兵少佐野島丹藏譯



予問ハス常ニ之ヲ實行セシテ戰史ニ散見スル所ナリ此作戰ハ特異  
 大ナル危険ニ遭遇スルヲ疑フヘカラス故ニ博識ナル兵家ハ其力ヲ  
 必スヘカラサルモノト敬シ全ク此作戰ヲ禁セントスルニ至リ大將  
 國ハ夜間作戰ヲ以テ怖ルヘキ動作ナリト云ヒアリユセール  
 怖ル可キハ敵彈ヨリモ甚シト云ヘリ然リト雖此作戰ハ時機ニ因  
 カラサルヲ往々之レアリ一千八百十二年十一月十六日佛將子イド  
 ニエペー河ヲ渡リテ露將クツソフカ軍<sup>此時クツソフカ軍ニ要ノ要撃ヲ避クルヲ得タルハ</sup>  
 全ク夜間ノ行軍ニ因リ佛將マルモン及モルチエーカ一千八百十四年三月へールシヤ  
 シアノアーズニ敗績セシ後同盟軍ノ追撃ヲ免レシモ亦夜間ノ行軍ニ因レルカ如キ是ナ  
 リ  
 方今火兵ノ威力益々強大ト爲リシヲ以テ將采夜間作戰ヲ行フニ愈々多カラサルヲ得ヌ  
 普將フアン、デルゴルト曰ク政者ハ夜間ノ暗黒ナルニ乘シテ攻撃準備ヲ敵兵ニ秘匿シ潛  
 ニ攻撃点ニ近接スルヲ得可シ若シ之ヲ晝間ニ行フハ著大ナル損失ヲ受クヘキモ夜間

ニ在テハ然ラス是レ亦夜間作戰ノ必要ナル所以ナリト  
夜間作戰ノ問題起リテヨリ兵家ノ注意ヲ促シ外國殊ニ露西亞<sup>ロシア</sup>及英吉利<sup>イギリス</sup>ニ於テハ此問題  
ニ関シテ大ニ其研究ヲ爲セリ今之ニ関スル諸説ヲ集録シテ讀者ノ閱覽ニ供スルハ固ヨ  
リ無益ノ業ニ非サルヘシ

夜間作戰ハ之ヲ行軍勤務警戒勤務及戰鬥ニ區別シテ逐次ニ論述ス可シ

### 第一 行軍

夜間行軍ハ時機ニ因テ行ハサルヲ得サルヲ前條既ニ其二例ヲ擧ケタリ近時佛ノ第十三  
軍團ハ師丹<sup>セダン</sup>ノ戦後即チ一千八百七十年九月一日ノ夜ニ於テメジエールヨリノピオン<sup>ピオン</sup>ボ  
ルシア<sup>ボルシア</sup>ニ行軍シ同月二日ノ夜ノピオン<sup>ピオン</sup>ボルシア<sup>ボルシア</sup>ヨリシヤトーボルシア<sup>シヤトーボルシア</sup>ニ行軍  
シテ普軍ノ追躡ヲ免レタリ又夜間敵ノ期セサル地点ニ我兵ヲ集合シ黎明不意ニ敵ヲ攻  
行撃スル爲メ此夜間行軍ヲ爲スヲアリ

亞米利加南北戦ノ時南軍ノ將リーハ一千八百六十三年五月ニ於テ夜間大迂廻ノ運動ヲ  
ヒ之ニ由テシヤンスロルスピールノ附近ニ陣シタル北軍ヲ襲ヒ全勝ヲ獲タリ是レリ  
カ夜間行軍ノ計畫其宜ヲ得タルニ由レリ

一千八百六十三年四月下旬リーハ六萬ノ軍ヲ率テフレデリックスブルノ線路ヲ占領  
ス北軍ノ首將フリーケルハ十三萬ノ兵ヲ以テ此陣地ヲ陥没セント欲シ五萬ノ一隊ヲ以テ  
フレデリックスマブルノ敵ヲ正面ヨリ箝制スル間本軍ハ敵ノ左翼ヲ迂廻シシヤンスロ

ルスピールノ近傍ナル敵ノ交通路ニ出ントスルノ策ヲ畫セリ此畫策ハ固ヨリ其當ヲ得  
タリト雖氏之ヲ實行スルノ方法完全ナラサルカ故ニ其期セシ所ト反對ノ結果ヲ得タリ  
四月三十日フリーケルハ八萬ノ兵ヲ以テシヤンスロルスピールニ出テフレデリックスマブ  
ールヨリゴルドンスピールニ通スル路ニ跨リリーカ軍ノ左翼ニ面シテ陣ス又將官セド  
ウイクハ五萬ノ兵ニ將トシテ正面ヨリリーカ軍ヲ箝制セリリーハ速ニ敵ノ籌策ヲ察知  
シ神速ノ決斷ヲ以テ其中央陣地ノ利ニ乘セント欲シ二十九日將官アソナルソンニ左翼  
ノ指揮ヲ委シ其兵員ヲ増加シフレデリックスマブルノ線路ヲ守ル爲メ僅カニ二旅團ト  
大砲十二門ヲ留メ三十日自ラ全軍ヲ以テ左方ニ赴ケリ  
北軍カシヤンスロルスピールニ於テ良好ノ陣地ヲ撰定セシ報ヲ得タルヤリーハ專ラ正  
面ヨリ敵陣ヲ攻撃スルノ利アラサルヲ覺リ自ラ二師團ヲ以テ正面ノ敵ヲ箝制シ  
ジャクソンヲシテ本軍ヲ率ヒ敵ノ左側ヲ迂回シ之ヲラバハンノツクニ壓感セントス  
此運動ハ營ニ其計畫ノ巧妙ナルノミナラス其實行ニ至テモ亦宜ヲ得タリ三十日ノ夕  
一ハ其二師團ヲシヤンスロルスピールノ前方ニ展開シ警戒網ヲ張ルノ間ジャクソンハ  
三師團ヲ以テ迂廻運動ヲ始ム五月二日午前ジャクソンハシヤンスロルスピールノ齊頭  
面ニ達シ北軍ノ右側ニ出ツジャクソンハ此地ニ達スルヤ一師團ヲ留メテリート連絡ヲ  
保タシメ親ラ他ノ二師團ヲ率テウールアルンストシヤンスロルスピールノ間ナルフー  
ケルノ背後ニ赴キ午後オランジ道ニ達ス

是ニ於テ南軍ノ陣地ハ殆ント直角ヲ爲シ其兩端ハラバハンノック河ニ近接シ北軍ノ陣地ハ南軍ノ線内ニ圍繞セラレタリ蓋シフーケルハ自ラ敵軍ヲ包圍セリト思ヒシニ却テ敵軍ノ圍繞スル所ト爲レリ

ジャクソンハ午後二時ヨリ五時ニ至ル間ニ於テ戰鬥ヲ開始シ二日ヨリ三日ニ涉リ日夜連戰シ五日ニ至リ終ニフーケルヲシテ戰場ヲ棄テラバハンノック河ヲ渡リ退去セシメタリ

リーカ計畫ノ功ヲ奏セシハ敵將セドウィックカ五萬ノ兵ヲ擁スルモ僅ニ二旅團ノ爲ニ扼止セラレ敢テ進戰セサリシニ因ルテ疑ナシ然リト雖モリーカ全ク敵ヲ欺罔スルヲ得タル所以ノモノハ獨リ此夜間ノ運動ニ因ルテ自ラ明カナリゴルツノ著シタル全國兵論中戰鬥ノ篇ニ曰ク凡ソ交戦ノ目的ヲ以テ夜間暗黒ニ乘シ兵ヲ展開スルハ敵眼ニ觸レヌシテ其兵器ノ殺害力ヲ避クルヲ得可シト此問題ハ夜間戰鬥ノ篇ニ於テ論スヘシ

夜間行軍ノ利ハ前文ニ説クカ如シ今爰ニ又其不利ヲ説述セントス

將官ドラゴミローフ曰ク行軍ヲ隱蔽スル方法ノ一ハ夜間之ヲ行フニ在リ然レモ夜間ノ運動ハ緩徐ニシテ且ツ疲勞ヲ起シ隊中ノ規律ヲ維持スルヲ難ク當ニ單行兵ノミナラス隊兵ト雖モ尚ホ路ヲ失シ小敵ノ爲メニ攻撃セラル、モ大ニ擾亂ヲ惹起シ輕微ノ警報ト雖モ駐止シ互ニ火撃スルヲ往々之アリト

露西亞「ウオエンヌイスポールニク」雜誌ニ某將校ノ説ヲ載セタリ曰ク凡ソ夜間ハ睡眠休

歇ノ時ナリ若シ夜間眠睡セサル時ハ其人忍テ疾病ニ罹リテ身心共ニ疲勞スルノ患アリ且ツ暗夜ニ於テハ隊次ヲ保テ難ク距離ヲ失ヒ易ク又結合力ヲ消滅シ方向ヲ誤リ小敵ト雖モ不意ニ乘襲スルハ忍テ列伍ヲ紊亂シテ狼狽周章遂ニ救フ可カラサルニ至ルト

露國大尉ルドジンスキ曰ク夜間ハ睡眠休歇ノ時ナルヲ須モ忘ル可ラス夜間ノ作戰ハ屢々大功ヲ獲ルヲアリト雖モ亦時トシテハ恐ル可キ禍害ニ罹ルヲアリ夫レ夜間暗黒ノ中ニ在テ兵隊ハ方位ノ標定ヲ確實ニスル能ハス終始摸索シテ進ムカ故ニ其行進緩漫ニシテ非常ニ疲勞ヲ起シ輕微ノ障害ト雖モ不意ニ起ルハ之カ爲メニ躊躇シテ進ム能ハス全隊路ヲ誤テ相失シ且ツ暗黒ニ在テハ微少ノ事ニモ感動シ易ク動モスレハ互ニ火撃スルヲアリ此ノ如キ不利ニ對シテ其災害ヲ避クルニ他ナシ惟々果敢ノ處置ヲ取ラサルヘカラスト

露西亞「インワリード」新聞ノ通信者ハ左ノ一例ヲ舉グ是レ前例ト并セテ以テ本論ノ實證トナスニ足ル可シ

一千八百七十七年八月初旬ア二府ヲ占領スル「クータイス」ノ聯隊一夕急ニ進發シテバツカチケラル府ニ駐屯セル枝隊ニ合ス可キ命令ヲ受ケタリ此府ハア二府ヲ距ル一約十八「ウエルスト」ナリ時ニ天氣陰靄細雨降りテ道路泥濘「クータイス」聯隊ハ命ヲ受ケテヨリ半時ニシテ出發ノ準備全ク整ヒ天幕ヲ収メ各兵器ヲ携フト雖モ前哨タル中隊ノ歸還ヲ待チ共ニ出發セサルヘカラスト然ルニ陰暗ノ爲メ傳令者ノ歩哨

ヲ探求シテ之ヲ集合スルニ許多ノ時間ヲ消費シ軍隊ノ行進ヲ始メシ頃ハ全ク夜ニ入  
 レリ故ニ始ヨリ隊伍ニ錯雜ヲ生シ終夜歩行スルモ僅々六「ウエルスト」ヲ經過セシノ  
 ミ然レモ翌日黎明後ハ行歩大ニ進ミ道路極メテ險惡ナルモ三時間ニシテ餘ス所ノ十  
 ニ「ウエルスト」ヲ經過シ了レリ故ニ夜ノ暗黒中ニハ其經過スル所一時間僅ニ二「ウ  
 エルスト」ニ過キサリシモ日出後ハ前夜雨中ニ行歩セシ疲勞アルニモ拘ラス其行程  
 ノ速ナル夜中ノ里數ニ二倍セリ爾後余輩ハ之ニ類似スル動作ヲ施行スル數回戰役結  
 局ノ頃ニハ夜間ノ行軍モ尚ホ日中ノ如ク行フヲ得タリト  
 此例ニテ考フルニ夜陰降雨等ハ行軍ノ施行ニ影響ヲ及ホス一ト大ナリト雖モ其時間ヲ費  
 ス所以ハ前哨ヲ集合スルト兵隊ニ夜間行軍ノ訓練ナキトニ起因スル一ト亦少カラストス  
 果シテ然ラハ平時ニ於テ兵隊ノ訓練ヲ完成シ以テ此障礙ヲ除去スル敢テ難キニ非サル  
 ヘシ  
 是ニ由テ之ヲ觀レハ此作戰ニ於ケル困難ハ全ク除去ス可ラサルモノト謂フ可ラス然ラ  
 ハ則チ此困難ヲ免ルノ方法如何ン今爰ニ「インワリード」新聞ニ載スル所ノ説ヲ以テ  
 之ヲ證明スヘシ  
 其説ニ曰ク夜間ノ運動ニ於テ隊伍ノ紊亂ヲ避ケルニハ兵卒ヲシテ暗夜迅速且ツ靜肅ナ  
 ル行進ヲ爲スノ慣習ヲ得セシメ或ハ暗黒ニ因リ或ハ聞寂ニ因リ或ハ反響ニ因テ生スル  
 特別ノ感動ヲ起サ、ヲシメ且ツ方位標定ノ法ヲ實地ニ研究セシムルヲ殊ニ必要トス

方位ヲ標定スルニ方り單ニ月影或ハ星光ニ依頼スルハ頗ル困難ナリ能ク之ヲ識別ス  
 ルハ唯々自己ノ練磨ニ在ルノミ其他尚ホ各人ノ能シ得サル有形上ノ能力即チ天賦ノ特  
 性ヲ有スルヲ要ス一千八百七十七年同七十八年ノ戰役中高加索ノ露軍ニハ夜間縱隊ノ  
 嚮導ニ充ツル爲メ特別ニ訓練シタル壯兵枝隊ヲ編入セシカ此壯兵ハ大ニ利益ヲ與ヘタ  
 リ  
 一千八百七十七年十一月九日ノ夜露軍カエルゼルムノ攻撃ニ敗績セシハ全ク熟練  
 シタル嚮導ナキニ由ルナリ  
 將官ヘーマンハデビ、ポイオンノ通路ヲ閉キテ後エルゼルムニ退却スル土軍ヲ追躡  
 ス既ニシテエルゼルム城防禦ノ狀況ヲ偵知シ正規攻城法ノ緩漫ナルヲ悟リ急襲ノ策  
 ヲ施シ一舉之ヲ拔カント欲シ其陣地ノ鎖鑰タルツアグーヲ以テ攻撃点ト定メ十一月  
 九日ノ夜歩兵十大隊砲兵二中隊騎兵一聯隊ヲ派遣シテ之ヲ攻撃セシム  
 此枝隊ハ二方面ヨリツアグーヲ攻撃セントシ夜半ニ縱隊ト爲リテ出發ス然レモ道路  
 ヲ暗知スル嚮導ナキヲ以テ皆路ヲ失シ獨リ右縱隊ノ前衛ノミ第一ノ目的点タル「メヂ  
 ド」眼鏡堡ニ達シテ之ヲ略奪ス然レモ後援ノ兵無キヲ以テ「メヂド」堡ヨリ後方ノ角面  
 堡ニ退却セシ敵兵ノ爲メ猛烈ニ逆襲セラレ竟ニ防守スル能ハスシテ退キ後之ヲ恢復セ  
 ントシテ百方カヲ盡スモ其目的ヲ達スル能ハス是ニ於テ露兵ノ計畫全ク畫餅ニ屬セ  
 リ

熱線ニシテ且ツ正確ナル嚮導ヲ欲ク時前文ニ示シタルカ如キ迷誤ヲ避クルニハ如何ナル方法ニ由ルヘキカ「インワリード」新聞ニ記載セル説アリ之ヲ左ニ掲ク

敵ノ近傍ニ於テ夜間運動ヲナシ遂ケント欲スル時ハ地上ニ在ル所ノ天然標準点ニ由テ方向ヲ標定スルノ必要ナリ若シ天然標準点ヲ欲ク時ハ人工標準点ヲ作ル可シ標準点トナス可キ天然物中其一ニヲ舉ケレハ輕壕畦畔、籬笆、林縁、道路等ナリ道路ハ他者ニ比スレハ最モ多ク且ツ日中通過シテ偵知シタル道路若クハ其近傍ニ沿フテ行進スル所ハ所定ノ方向ヲ迷失スルノ患ナク其敵軍ニ遭遇スルモ尚ホ正面ノ方向ヲ存スルノ容易ナリ就中最モ適當ナル道路ハ鐵道、敷石路、填土路、行樹路ノ如キ特別ノ名アル道路ニシテ一言以テ之ヲ表スレハ夜間ト雖モ他ノ道路ト容易ニ識別スルモノナリ人工標準点ハ點火、燈火ヲ用フ此類ノ標準点ハ陰蔽地又ハ風雨ノ時ニ用ヒ難ク且敵ヨリ展眸セラル、ノ患アリ但燈ハ唯々其一方ノミヲ顯ハス方法ヲ以テ使用スルヲ得ヘシ

又羅針盤及ヒ星辰ヲ視テ方位ヲ標定スルノ法アリ英國步兵操典ニ曰ク各將校ハ夜間方位ヲ標定スル爲メ夜行羅針盤ヲ携帯セサル可ラス若シ此ノ如キ器械ヲ缺ク時ハ星辰ニ由テ方位ヲ標定ス可シト

夜間ノ行軍ヲ行ハントスルニハ預メ其經過ス可キ道路ヲ實踐シテ充分ニ之ヲ偵察スルヲ緊要トス然ラササレハ不意ノ障礙ニ遇フテ阻止セラレ預定ノ時間ヲ以テ目的点ニ達

スルヲ得サルノ患アリ一十八百十二年露西亞ノ第一第二ノ兩軍拿破崙ノ軍ヲスモレンスクニ扼止セント欲シテ其目的ヲ達セサリシハ全ク之ニ起因スルナリ今此事ニ就キ「ウ・エンヌイヌボルニク」雜誌ニ掲載シタル記事ヲ左ニ抄録ス可シ

一十八百十二年八月スモレンスクニ集合シタル露西亞第一第二ノ兩軍ハ拿破崙ヲ攻撃スル爲メ行軍ヲ始メ第二軍ハ佛蘭西軍ノ正面ニ向ヒ第一軍ハ其左側面ニ向テ進ム八月十六日第二軍ハスモレンスクノ西方三十「ウ・ウルスト」ヲ距ルカタンニ在リ第一軍ハ其西北方七十「ウ・ウルスト」ヲ距ルボブレチー及ヒルウドニ在リライエブスキノ兵一萬五千ハスモレンスクニ在リ此時ニ當テ拿破崙ハ露軍ノ左側ヲ擊テ之ヲ北方ニ驅逐シ以テ莫斯科道ヲ奪ハント欲シ兵十八萬ヲ率テコミントモヒレウノ中間ドニエペー以外ニ進ミスモレンスクヲ距ル西南十五「ウ・ウルスト」ノコリトノニ到ル

拿破崙ハライエブスキノスモレンスクヲ防禦スルカ故ニ一舉ノ其地ニ進入スル能ハスト雖モ其城市ヲ圍繞ノ有利ノ陣地ヲ占メ此ヨリノ露軍ノ必由ナル退却線即莫斯科道ヲ脅威シ且此行軍ニ由リ露軍ヲシテ已ムヲ得ヌスモレンスクニ集中シカヲ竭シテ此地ヲ防守セサルヲ得サルニ至ラシメタリ故ニ露西亞ノ第一第二兩軍ハ十七日此地ニ達シ第一軍ハ彼得堡道ヨリ莫斯科道ニ移ル爲メ迂迴運動ヲ行ヒ此間第二軍ハ脅威セララル、所ノ退却線ヲ掩護スル爲メ十八日ヲ以テ莫斯科道ヲ占領シソログエブノ徒涉場ニ進ムヘキノ命ヲ受ケタリ此二軍ハ敵ニ隱匿シ且時間ヲ省ク爲メ夜間運動ヲ

行フ一ニ決セリ故ニ第一軍ハ二縱隊ト爲リ午後營ヲ發シ二道（二道ニ一處ニ合スル所ノ）分レテ行進ス其内道ニ由ル所ノ縱隊ハツーツコフ之ヲ率ヒ午后八時ニ出發シクロコトキンニ至ルマテ彼得堡道ニ由リボルツエボゴルアノボシヤビノ及カシヤエボフ經過シテ莫斯科道ニ入りアレゲキンニ達ス此路程ハ大約三十「ウエルスト」ニ過キサルモ其間土地不正凹道多ク殊ニ其二道ハ水流アリ西岸ハ泥濘ニシテ徒渉ス可ラス橋梁アルモ皆木造ニシテ重量ノ負擔ニ堪ヘス砲兵ノ通過スルヤ忽チ破壊セシヲ以テ之ヲ築造スルニ非サレハ全軍彼ノ岸ニ達スルヲ得ス露軍ハ之レカ爲メ大ニ時間ヲ徒費シ前衛ノ莫斯科道ニ達セシハ午前八時ニシテ其行程ヲ數フレハ十二時間僅ニ二十「ウエルスト」トヲ經過セシノミ

第二軍ハ四軍團ニメ次ノ順次ヲ以テ行進ス即先頭ハ第一軍團ニシテ騎兵ナリ其次ハ第三第四第二ノ三軍團ニシテ皆歩兵ナリ前衛ハ歩兵三聯隊騎兵一聯隊哈薩克騎兵三聯隊騎砲兵一中隊ヲ以テ編成シ後衛ハ歩兵七聯隊騎兵三聯隊重砲兵一中隊ヲ以テ編成ス此縱隊ハ午後九時出發シ第一軍團ト第三軍團ハ正シク順次ニ依テ運動ヲ始メタリト雖モ第四軍團ハ遲滯シ爲ニ第二軍團ヲシテ定時縱隊ニ分解スルヲ得セシメス此遲滯ニ由テ第三軍團ト第四軍團トノ間相離ル、一甚タ速ク其第四軍團ノ各聯隊モ亦大ニ隔離シ後者ハ先者ヲ見ルヲ能ハスシテ相失フ者アルニ至ル第二軍團ハ常ニ第四軍團ニ跟隨シテ行進スルカ故ニ第四軍團ノ爲シタル過誤ヲ覺知セス之ト共ニ方向

ヲ誤レリ是ニ由テ第四軍團ノ一部ト第二軍團ノ全部ハ午前六時スモレンスクヲ距ル半「ウエルスト」ナル彼得堡外郭附近ノゼデオノボニ出タリ

此時ニ方リ大將ネイハドニエアルヲ過キ外郭ノ前面ニ布陣シモ「ラハ」ナンスウチーグルウシトモンブラン」ノ騎兵ヲ以テ彼得堡、莫斯科二道ノ偵察ヲ行フ露將バルクレイ、ド、トリーハ幸ニゼデオノボニ在テ速ニ第四軍團ノ過誤ヲ認知シ直ニ後衛ヲ以テ佛軍ヲ扼止シ露ノ縱隊ヲシテ更ニ本路ヲ取ルノ時間ヲ得セシメント欲シ佛軍ニ其畫策ヲ秘匿シ遂ニ危險ヲ免カル、ヲ得セシメタリ

夜間行軍ヲ行フハ預メ詳密ニ其行路ノ地理ヲ偵察ス可キ一ハ前例ニ照シテ明ナリ此偵察ヲ行フニ騎兵若クハ特別ノ偵察兵（騎兵ヲ用フレハ行軍中遭遇スル諸障礙物ノ確報ヲ得預メ之カ區處ヲ爲スヲ得ヘシ）

大尉ルードジンスキ曰ク經過ス可キ道路殊ニ其道路ニ在ル障礙物ヲ詳密ニ偵知スルハ缺ク可カラサル事ナリ縱ヒ道路ヲ熟知セル嚮導アリト雖モ尚ホ此偵察ヲ必要トス隊次ヲ保持シ勉メテ疲勞ヲ減スルニハ預メ各隊間ノ距離ヲ増シ以テ遽止急走ヲ避ケサル可ラス是レ夜間ニ於ケル縱隊ノ延伸ハ晝間ヨリ大ナレハナリ又遲滯駐止スルヲアル時ハ其原因ヲ求メ直ニ之ヲ救済スルノ方法ヲ施ス可シ各隊ハ歧路若クハ十字街ノ處ニ至レハ標木ヲ樹テ之ニ懸燈ヲ懸ケ以テ後隊ノ標準ト爲ス可シ但シ懸燈ハ敵ヲ距ル遠隔ノ地ニ非サレハ施ス可ラス

注意周到ナルモ縦隊ハ行軍中ニ大ニ延伸スル者ナリ故ニ之ヲ防カン爲メ時々駐止シテ  
運滯兵ヲ其定距離ニ復セシムルヲ要ス

「ウエントナイズボールニク」雜誌ニ曰ク道路險難通行シ難キ所ニ於テハ殊ニ此注意ヲ  
緊要トス故ニ各隊險路橋梁隘路等ノ如キ通行困難ナル處ニ至レハ停止シ最後ノ兵乘リ  
合スルヲ待テ再ヒ行進ヲ始ムヘシト

一千八百六十三年サトノ施行セシ行軍ノ如キ諸隊ノ大移轉トフォンアルゴルツノ説キ  
シ準備運動トヲ除クノ外夜間縦隊中ニ兵隊ヲ配賦スルノ法ハ晝間用フル所ト同シカラ  
ス大尉ルードジンスキ曰ク夜間ハ砲兵及騎兵ノ動作上ニ影響ヲ及ホス一實ニ著大ナリ  
トス此ニ兵種ハ唯々推測ノミニ依テ動作シ且特別ノ時機ニ非サレハ之ヲ用フルヲ得ス  
歩兵ハ之ニ反シテ夜間何レノ時ニ於ケルモ常ニ之ヲ用フルヲ得可シ故ニ縦隊中ニ兵隊  
ヲ配賦スルニハ先頭ニ歩兵ヲ置キ之ニ砲兵ノ一小部隊ヲ加ヘ騎兵ト自餘ノ砲兵ハ後尾  
ニ置ク可シト

前衛ニモ亦此配賦法ヲ用テ可シ蓋シ前衛ハ其利害本隊ト同シケレハナリ

「ウエントナイズボールニク」雜誌ニ曰ク夜間暗黒中ニ偵察ヲ爲スニハ騎兵ヨリ歩兵ヲ  
可トス故ニ縦隊ノ直接ナル保護ハ歩兵隊ニ任シ騎兵ハ唯々通報勤務ノミニ用テ可シ砲  
兵ハ夜間ノ戰鬥中重要ノ職務ニ充ツ可ラザルヲ以テ之ヲ歩兵中ニ置ク時ハ之カ爲メ却  
テ運動ヲ緩徐且ツ困難ヲシメ敵ノ攻撃ヲ受クルニ當テハ擾亂ヲ惹起スルノ患アリ騎

兵モ亦此ノ如シ是故ニ此兩兵種ハ縦隊ノ後尾ニ置クヲ可トス車輛モ亦砲兵ニ同シ故ニ  
何レノ時機ニ於テモ縦隊ノ内部ニハ砲兵ヲ車輛ヲ置カサルヲ要ス此規則ハ晝間モ適用  
ス可シト雖モ夜間ハ殊ニ遵守セサル可ラスト

之ヲ要スルニ夜間行軍ハ屢々之ヲ用フルヲ必要トスルヲアリ亦時トシテハ己ムヲ得ス  
之ヲ用フルヲアリ然レモ此行軍ハ著大ノ疲勞ヲ起スカ故ニ砲兵メテ之ヲ避ケサル可ラス  
若シ夫レ兵隊此行軍ニ習熟シテ特別ナル要則ヲ熟知シ其經過スヘキ道路ヲ詳密ニ偵知  
シ殊ニ此行軍ニ必要ナル隊伍整肅ノ方法ヲ施スルハ大ニ其困難ヲ減ス可シ果シテ然ラ  
ハ之ニ由テ其成功ヲ期スヘキ時之ヲ用フルヲ得可シ此行軍ニ頗ラサルヲ得サル場合ノ  
如キハ殊ニ然リトス

第二 前哨勤務

夜間ノ運動ニ習熟セサル兵隊ニ在テハ前哨、斥候偵察等ノ如キ停止間ノ警戒勤務ヲ闇  
黒中ニ行フニ當リ困難ヲ生スルヲ行軍ヨリ大ナルヘシ次ニ載スル「インワリード」新聞  
ノ抜萃ヲ讀ムハ此困難ノ一斑ヲ知ルヲ得可シ此説話ノ信偽ハ記者ノ責ニ任スヘキ者  
ニシテ余輩ノ與リ知ル所ニ非ス其文中夜間前哨ノ屢々交代スル事トミルレバアリヲ要  
撃スル爲メ諺ケタル伏兵配備ノ如キ非議ス可キ所ナキニ非ス今其文ヲ抄譯スル左ノ如  
シ

夜間前哨ヲ交代スルハ敵ヲシテ其位置ト其兵數トヲ窺ヒ知ル能ハサラシメンカ爲ナ

露土ノ  
役

前哨  
勤務



リ敵ト近接スル甚シキ時ハ殊ニ此措置ヲ緊要トス前哨勤務ニ訓練セサル兵ヲ以テ之ヲ行ハシメントスルノ難キ一ハ特リ之ヲ實驗セシ人ノ知ル所ナリ晝間ニ於テ偵知シ能ハサル土地ニ在テハ殊ニ然リトス

「クロータイース」聯隊ノ狙撃兵第二第三中隊ハ夜間アニニ到着シ前哨ヲ配備スル爲メ二時三十分ヲ費シタリ其後此二中隊カ之ト同一ナル動作ヲ行フニ其時間ハ三十分若クハ二十分ニ過キサリキ又日出ニ至リ一ニ歩哨ハ敵ニ背シ我カ大哨ニ面スルヲ見タルト屢々之アリトス

又曰ク余ハ夜間方位ヲ標定スルノ法ヲ學ハサレハ之ヲ實行スルニ困難ヲ感スル幾何ナルヤヲ証明スルヲ得タリ余ハ幼ヨリ志願兵ト爲リ次テ下士ト爲リ次ニ士官ト爲リ順次其職務ニ訓練スト雖モ未タ嘗テ戰ニ臨ミ夜間暗黒中ニ前哨ヲ布クノ機會ヲ得サリシ然ルニ此日余ハ中隊長ノ職ヲ奉シ余カ指揮スル第三中隊ハ此夜前哨勤務ヲ爲ス可キ命令ヲ受ケタルヲ以テ余ハ直ニ馬ニ騎リ地形ヲ偵察セント欲シテ出發シタリ余カ中隊ノ占位スヘキ地ヲ經過スルニ約ソ二時間ヲ費シタリ然レモ余ハ此偵察ニ因テ詳密ニ地形ヲ偵知シ自ラ一物モ遺スナシト思ヒシニ豈ニ計ランヤ夜ニ入り再ヒ中隊ヲ率テ暗黒中ヲ行進スルニ及ヒ行ク一大約半「ウールスト」ノ處ニ至レハ逸乎トシテ事物ヲ辨別スル能ハス一堆ノ土モ岡阜ト見ヘ晝間眼ニ遮ラサリシ細小ノ窪地モ大ナル深谷ノ如ク一時茫然爲ス所ヲ知ラス數々搜索シテ始テ行進シ僅ニ余カ占領ス可キ

点ニ達シ倉卒ニ哨所ヲ配置センカ後其位置ヲ巡視セントスル時亦一層甚シキ困難ニ遭遇セリ其各哨ヲ探求スルヤ大ニ時間ヲ費シ歩哨線ヲ超ルト屢次ニ及ヒ余カ大哨ニ歸還セシハ已ニ日出ニ至レリ思フニ他ノ將校モ亦余カ如キ變境ニ際會セシナラント  
此ノ如キ場合ニ於テ急ニ前哨ヨリ報告ス可キ事件アラハ馬ソ此情報ノ目的地ニ達スルヲ得ンヤ

我輩ノ此事ニ就テ喋々スルヲ須ヒス尚ホ露國ノ新聞紙ニ記スル所ヲ續記セン  
當時我枝隊ノ數ハ少クシテ隔日ニ輪番守衛ヲ爲セリ故ニ第二週ノ終ヨリ諸事大ニ其趣ヲ異ニシ余輩ノ暇ハ事物ノ眞假ヲ辨別スルニ熟シ余輩ノ耳ハ夜間ノ反響ヲ聞クニ慣レ勤務ヲ爲スノ易キ夜モ猶ホ晝ノ如キヲ覺ヘ當初ノ艱難ヲ追想スレハ自ラ其愚ヲ嗤ハサルヲ得ス

夜間兵卒ノ困難ハ一層將校ヨリ甚シ蓋シ始テ歩哨トナリシ兵卒ハ其前面ヲ展眸スルモ朦朧トシテ彼我ヲ辨セス岩石ノ横ハルハ隱伏シタル人カト疑ヒ麒麟ノ駢ケルハ敵ノ采ルカト訝リ眞個ニ敵兵ノ現出シ采ルルハ精神忍テ昏迷シ平素學科上ニ於テ習熟シタル所ノ事モ之ヲ實際ニ施スヲ得サルモノトス  
一千八百七十七年九月初旬間諜采リ報シテ曰ク土耳其別働隊ノ長ミクレルアリガレイヤールベイラクター二村間ヨリ我背後ニ采リ攻撃セントスト此攻撃ハ二村間

ニ守兵ナキハ之ヲ施ス<sub>一</sub>實ニ容易ナリ故ニ余ハ壯兵一校隊ヲ率テベイラクタル  
近傍ニ埋伏スヘキ命ヲ受ク余ハ幸ニ此近傍ノ地理ヲ詳悉シ且夜間方位ノ標定ニ熟ス  
ルカ故ニ日没後容易ニ所定ノ地ニ達シ部下ノ兵百名ヲ配布シテ散兵ノ密線トナシ殘  
餘ノ兵ヲ以テ縱隊トナシ其後方ニ置ク此夜暗黒ニシテ十五歩ノ前夜々望ムヲ得ス因  
テ前方ニ三個ノ復哨ヲ送遣ス

余ハ前月ノ戰ヨリモ一層實功ヲ得ント欲シ歩哨ニ令シテ火撃スルヲ禁シ異常ノ事ヲ  
目撃セハ速ニ退却スヘキヲ命ス既ニシテ稍々三十分ヲ過ルヤ一名ノ歩哨米リ告テ曰  
ク近距離ヲ隔テ敵ノ騎兵ヲ發見シ且ツ其馬蹄ノ響ヲ聞ク蓋シ敵兵米リ襲フナラント  
余ハ之ヲ聞キ直ニ銃ニ裝填セシメ余カ号令アルニ非サレハ火撃ス可ラサルノ命ヲ散  
兵線ニ傳ヘ待ツ<sub>一</sub>久フシテ何者ノ現ハレ来ルナシ是ニ於テ余ハ耐忍スルヲ得ス一士  
官ヲ遣シテ敵情ヲ探ラシム三十分ノ後士官一頭ノ水牛ヲ牽キ米リ曰ク嚮ニ歩哨カ敵  
騎ト認メシハ水上ノ煙霧消散シテ對岸ニ並列スル岩石ノ露出セシナリ馬蹄ノ響ト聞  
キタルハ三頭ノ水牛奔馳スルナリ此水牛即チ其一ナリト

凡ソ迷誤ノ多キハ常ニ夜間ニ在リ而シテ之ヨリ生スル結果ノ如何ハ既ニ前ニ述フル所  
ヲ以テ知ル可シ晝間ハ新兵前哨勤務ニ從事シ得ルモ夜間ハ之ヲ服行スルヲ得ス陰闇ノ  
時若クハ風雨ノ夜ニ於テハ特ニ然リトス

南北戰

亞米利加南北戰ノ時一千八百六十三年五月南軍ノ將ジャクソン北軍ノ右端ニ於ケル

「ヂピンス」ノ師團ヲ奇襲スルヤ其前哨ハ本隊ノ近傍深林中ニ在リシカ此襲撃ニ過ヒ  
大ニ亂レ退テ其後方ノ聯隊ニ依據ス聯隊ハ之ヲ視テ急ニ銃ヲ執リ抗戰ヲ試ムト雖<sub>一</sub>遂  
ニ支フル能ハスシテ師團ノ本隊ニ走ル是ニ於テ本隊モ亦大ニ破レ砲兵車輛陣中病  
院ト共ニシヤンスロールスビール及ラバハンノックニ向テ走り本軍ノ預備隊ニ至ルマテ  
擾亂ヲ惹起セシメタリ

「インワリド」新聞ニ曰ク兵卒ヲノ敵情ヲ見聞シ其不意ニ米リ近ツクヲ避クルノ法ヲ  
知ラシムルハ甚タ難事トス又晝間ト雖<sub>一</sub>時機ニ乘シ地上ニ伏匿シ凹處ニ潜入シテ身ヲ  
隠シ匍匐シ来ル所ノモノヲ識別シ竊ニ銃ニ裝填シ且ツ襲撃ニ過<sub>一</sub>テ周章狼狽セサラシ  
ムルニハ大ニ實地ノ訓練ヲ要スト

又曰ク聯隊中前哨勤務ノ事ニ冷淡ニシテ之ヲ意トセサルハ教練中此部分前哨勤務ヲ忽ニシ  
定期檢閲ノ時ニ於テ注意周到ナラサルノ致ス所ナリト

一千八百七十七年八月十二日キジールタバノ戰鬪ハ我兵此役ノ當初ニ於テ夜間ノ前  
哨勤務ニ熟セサルノ實況ヲ証明スルニ足レリ

露土ノ  
役

此月十二日「ヂメレチエー」聯隊ノ第三大隊ハキジールタバノ岡阜ヲ占領シニ中隊ヲ  
以テ前哨ニ任セシカ午前三時ニ至ルマテ異狀アルナシ三時ニ至リ人馬ノ聲ヲ聞ク我  
前哨以爲ク是レ我斥候ノ過タルナラント故ニ之ヲ意ニ分セス數分時ノ後一隊ノ近ク  
ヲ聞キ又二三ノ砲聲ヲ聞クヤ忽チ敵ノ一騎隊我カ歩哨ノ近傍ニ現出ス是レ敵ノ騎兵

二中隊ニシテ其馬臂ニ概兵ヲ累騎セシムルモノナリ此騎兵ハ急ニ馳セテ我歩哨線ヲ貫キ其概兵ヲ馬ヨリ下ラシメ更ニ轉廻シテ我歩哨ヲ背後ヨリ襲撃ス我二中隊ハ兵員大約五百人アレヒ之ヲ拒止スル能ハス全ク意外ノ襲撃ヲ受ケテ敗走セリ此時若シ若干ノ分遣哨ヲ歩哨線前ニ出シ我哨兵モ亦預メ夜間前哨勤務ニ習熟セシナラハ是等ノ變ハ生セサリシナラン

一千八百七十七年十月一日大ヤニア山ノ戰鬪ニハ熟練シタル兵ヲ以テ哨兵ヲ配布セシカ故ニ前文ニ記シタルモノト全ク反對ノ結果ヲ得タリ是ヨリ先キ土軍ハキジールタバヲ撤去シタルヲ以テ大ヤニア山ハ又我有トナレリ初メ此山ノ我有ト爲リシヨリ此ニ至ルマテ互ニ奪回スルヲ前後四回ニ至ル故ヲ以テ我兵ハ土軍ヲシテ復タ此山ヲ復スル能ハサラシメント欲シ山上ニ塹溝ヲ築設シ「チフリリスグルナチエー」聯隊ノ第三大隊高加索「グルナチエー」大隊ノ第五中隊砲四及「チフリリス」聯隊ト「ミンダレリ」聯隊ヨリ交互ニ出ス所ノ第二大隊ヲ以テ枝隊ヲ編成シ之ニ塹壕ノ防禦ヲ任ス時ニ土軍ノ陣地ハ我ト甚タ相接近スルヲ以テ正規ノ前哨ヲ置カス唯々山ノ斜面ニ小哨若干ヲ分遣セシノミ

是時土將ムークタルバシヤ以爲ク大ヤニア山ノ守兵ハ哈薩克兵ノミヲ以テ之ヲ占領スルニ因リ其防禦薄弱ナリト因テ不意ニ攻撃シテ此山ヲ恢復セント欲シ歩兵六大隊及野砲兵砲三ヲ以テ此任ニ當ラシメアリアル及小ヤニヤ山ノ砲臺ヲシテ之カ應援

ヲ爲サシム此枝隊ハ午前三時ビジンキエアニ集合シ四時ヲ以テ出發シタリ

我小哨ハ夜間ノ勤務ニ熟練シタル兵ヲ以テ編成セルカ故ニ闇夜ト雖モ敵ノ来リ近ツクヲ偵知シ急ニ之ヲ「チフリリス」聯隊ノ第三大隊長タル少佐ウラノビッチニ報知シ敵ヲ觀察シ無テ大ヤニヤ山上ニ設ケタル塹溝ニ向テ退却ス少佐ウラノビッチハ高加索ノ老練ナル將校タリ其小哨ヨリ報シ来レル事ノ精確ナルヲ檢知スルヤ速ニ其狀勢ヲ將官シヤクウニ報知シ又敵ノ攻撃已ニ逼リシヲ以テ塹溝ノ守兵ニ通知ス此ニ於テ我兵ハ各々其守地ニ赴ク其赴クヤ敵ヲノ既ニ其企圖ノ破レタルヲ知ラサラシメンカ爲ハ銃ヲ發スルヲナク又響音ヲ起スヲナシ故ニ土兵ハ我兵ヲ不意ニ攻撃シ得ヘント信シ多數ノ散兵ヲ前進セシメ其後方ノ密集部隊ヲ置キ之ヲ支援シ周密ナル注意ヲ以テ山ノ斜面ヲ攀登シ采レリ少佐ウラノビッチハ敵ヲノ殆ント相接スルニ至ルマテ近接セシメ然ル後忽然有効ノ火撃ヲ叢射セシム敵兵群易列ヲ亂シテ退クト雖モ尚ホ免ルハヲ得ス恰モ好シ此時「ミンダレリ」聯隊ノ第三大隊ハ「チフリリス」聯隊ノ大隊ト更代セントシテ塹溝ノ邊ニ采リシカ敵ノ逃走スルヲ見テ大隊長ハ其部下ニ命シ一齊射撃ヲ行ハシメ次テ銃劔ヲ以テ突入シ之ヲ追躡シテ殆ント其陣營ニ至ル此戰ヤ敵兵ノ死スル者五百人其中將校六人負傷者ノ數亦多ク我兵ノ死傷ハ僅々數名ニ過キス銃器彈藥馬匹等ヲ奪ヒシヲ舉テ數フ可カラス土國ノ官報ニ據ルニ此戰鬪ハムークタルバシヤノ軍ニ驚怖ノ感覺ヲ起サシメタリト

夜間ノ戰闘ハ白兵ニ頼ル可キ上例ノ證スル所ナリ即奇襲ノ功ヲ奏スルニハ銃ノ齊發ヲ以テシ之ニ次クニ銃劍ノ突撃ヲ行ヒ以テ戰勝ヲ完フス可シ蓋シ此ノ如キ場合ニ於テ此方法ヲ用フ可キハ多辯ヲ須ヒスシテ自ラ明ナリ

兵卒ヲシテ夜間前哨勤務ニ熟練セシムルノ必要ナルハ前文ノ二例ニ因テ明ナリ前文ニハ唯々前哨ノ停止部即歩哨及小哨ノ事ノミヲ論シタリ又尋常偵察及斥候ノ如キ移動部ニ於テモ經驗ト訓練ヲ要スルノ尚ホ停止部ニ譲ラス否ナ一層之ヲ必要トス可シ晝間ノ偵察ハ就中騎兵ノ任タルノ固ヨリ論ナシ然レハ夜間ニ至テハ全ク其利害ヲ異ニスヘシ何トナレハ夜間暗黒中ニハ騎兵ノ障礙ヲ受クルノ步兵ヨリ甚シケレハナリ歩兵ヲ用フルノ利益ハ許多アリト雖モ敵眼ニ觸ル、ト僅少ナルト騎兵ノ到ルヲ得サルノ地ニ到リ得ルヲ其最モ大ナル者トス大將ビュジョー曰ク原野ニ於ル晝間ノ哨兵ハ大抵騎兵ヨリ出ス可キトハ人ノ知ル所ナリ然レハ夜間ハ道路小徑ニ由リ騎兵ノ前方ニ小數ノ歩兵ヲ出ス可シ歩兵ハ沈靜ニ敵ヲ觀察シ且ツ容易ニ隱伏シ得ルヲ以テ騎兵ニ比スレハ此勤務ニ適當ス又其退却ニ方テハ一隊ニ考フルヨリモ一層容易ニ之ヲ行フ騎兵ニ在テハ之ニ反シ夜間ハ殊ニ恐怖ノ念ヲ懷ク大ナリ故ニ我未タ敵ニ偵知セラレサルモ既ニ我行進ヲ探知セラレシモノト爲シ極メテ疑團ヲ抱キ其行進躊躇遠巡スヘシ是ヲ以テ夜間ハ歩兵ヲ用ヒ黎明ニ至テ是ヲ退ケ要スレハ騎兵ヲ放テ偵察ヲ爲サシム可シト

露西亞人ハ此原則ヲ忽ニセス一千八百七十七年之ヲ應用シテ悉ク好結果ヲ得タリ「イ

夜間戰

ンワリード」新聞ニ曰ク一千八百七十七年ノ役小亞細亞ニ於テ斥候ハ毎夜遠ク出テ、偵察シ敵ノ前哨線内ニ進入スルノ屢マ之アリ然レハ夜間ノ勤務ニ熟練セシヲ以テ未タ嘗テ之カ爲メ過害ヲ被ラサリキ此ノ如キ成績ヲ得タルハ特リ實驗ニ因ルモノナリ不幸ニシテ戰爭<sup>露土</sup>以後此緊要ナル問題ニ就テ曾テ研究スル者ナク大演習ノ際縱隊ノ側面ニ斥候ヲ送達セシマアリト雖モ搜索ノ目的ニ關シテハ毫モ利スルノナカリシト

第三 夜間戰闘

夜間行軍及夜間前哨勤務ニ關シテハ既ニ外國ニ於テ行ハル、所ノ諸説ヲ叙述セリ之ヲ要スルニ其諸説ノ結論ハ皆平時ヨリ軍隊ヲシテ此種ノ作戰<sup>即夜間行軍夜間前哨勤務</sup>ニ練習セシムルニ在ルノ前文既ニ証明スル所ナリ然リ而シテ夜間戰闘ニ於ケルモ亦兵學者ノ論スル所ヲ考察スルニ其結論ハ前説ト異ナルヲナシ

實ニ兵學家ハ此戰闘ヲ以テ將采屢々行ハル可キモノトセリ

一千八百八十三年中佐ボギユスラウスキ著ス所ノ書ニ據テ一例ヲ示ス可シ

夜間攻撃ハ之ヲ施ス大小ノ差アリト雖モ決シテ廢棄セラレ可キモノニ非ス故ニ此攻撃ハ一大結果ヲ生スヘキ者タルヲ叙述スルモ亦無益ノ事ニ非サル可シ普魯士戰史ヲ閱スルニ夜間ニ於ケル大戰ノ例三アリ其一ハ一千八百五十八年ホーフキルフノ戰ニノ敵ハ夜間攻撃ヲ行フテ勝利ヲ獲タリ其二ハ一千八百十四年ラオンノ戰其三ハ一千八百七十一年マンスノ戰ニシテ此兩戰ニハ我兵夜間攻撃ヲ以テ勝利ヲ獲タリ此三

例ニ就テ考フルニ時機恰當ナレハ夜間攻撃ノ功アルヲ證スヘシホーフィキルフニ於テハフリードリッヒ大王怠慢ニ由テ敵ノ擊破スル所ト爲リラオンマンスニ於テハ佛兵前哨勤務ノ不完全ナルト其軍紀ノ立タサルトニ由テ敗衄ヲ取レリ我輩ハ此攻撃ヲ以テ特リ真理ニ合シタル攻撃法ト爲スモノニ非ヌ唯々特異ノ形勢ニ於テ應用ス可キモノトスヘシ

前條ニ示シタル事項ヲ詳密ニ知ラシムル爲メホーフィキルフ及ヒラオン兩戰ノ事蹟ヲ再説スルハ蓋シ贅言ニ非サル可シ

普國中佐カルチナール、フン、ウヰッデルン一千八百八十九年ノ兵事新聞第十六號ニホーフィキルフ戰ノ事ヲ載セタリ今之ヲ左ニ抄譯スヘシ

七年戰

時ノ形勢ニ由リ奇襲ノ便ヲ得ルハ古今其例多シト雖ヒ一千七百五十八年十月ニ於テ澳將ダウンカ遭遇セシ形勢ノ如キハ殊ニ較著ナル者トス此時ニ方リ普魯士王ハ露軍ヲ擊タント欲シテシユレジエンヲ去リ澳將ダウンハ八万ノ兵ヲ督シドレスデン敵艦府ニ向テ進ム普魯士王ツォルンドルフニ於テ露軍ヲ擊破シ轉ノ澳軍ニ向テ進軍ハ普王ノ近接スルヲ見テ退却ス十月七日ダウンハレーパウノ近傍ニ在テキトリッツノ北方五「キロメートル」ノ地ニ陣シ其左翼ハパウツェンノ路上ニ跨リ其右翼ハコチツノ近傍トレーパウ河ニ據テ陣ス後三日普軍ハパウツェンヨリ來リ澳兵ノ陣前ニ到ル普王ハ敵ノ防禦陣地ニ據ルヲ見テ一時大ニ驚クト雖ヒ亦以爲クダウンカ此ノ如ク占陣ス

ル所以ハ唯々時間ヲ延クノ策ニシテ翌日ニ至ラハ更ニ其退却運動ヲ繼續スルナラント故ニ普王ハ右方ホーフィキルフバウツェン道ノ近傍ト左方ローデウツトノ中間ニ陣シ其正面ハ延テ三「キロメートル」ニ亘リ一小流ヲ以テ之ヲ掩護ス左翼ノ前方ヲウスカ村ハ澳

軍ノ占領スル所ト爲ルヲ以テ普王ハ其前方ニ若干ノ分遣哨ヲ配置シ重砲砲臺ヲ築造セシメホーフィキルフノ近傍ニモ亦此砲臺ヲ建設セシメタリ普軍ノ陣線ハホーフィキルフヨリ西方ニ折シスタインデルフルニ達シ此地ニ驃騎兵十五中隊ヲ配備ス普王ノ此地陣ハ頗ル其宜ヲ得ス蓋シホーフィキルフノ高地ハ全ク其右方ヲ瞰制シ其中央ニ位スル森林中ニハ澳ノ輕歩兵充満スレハナリ

普王ハ此ノ如キ位置ニ在リ三萬ノ兵ヲ以テ九萬ノ敵ニ對ス其措置ノ輕舉ナル甚シト謂フ可シ而シテ王ノ侍衛官中此危殆ナル形勢ヲ見テ建言スル者無キニ非スト雖ヒ普王ハ敵ノ常ニ躊躇スルヲ見彼レ我ヲ攻撃スルノ決心ナキヲ信シ却テ退却スヘシト欲シ毫モ之ヲ聽カス固ク其説ヲ主張シテ動カサリキ

ダウンハ親ヲ六萬五千ノ兵ヲ率ヒ其左翼ホーフィキルフニ驃騎兵及「クロート」騎兵輕騎兵一種三千ヲ派遣シ其右翼ワイセンベルグノ近傍ニ二萬八千ノ一隊ヲ分遣シタリ

兩陣相持シテ十三日ニ至ル此數日間ニ於テダウンハ夜間敵ヲ攻撃スルノ準備ヲ爲シ十三日ノ夜遂ニ之ヲ施行セリ初メダウン以爲ク森林ノ掩護ニ因リ大兵ヲ以テ敵ノ前哨近傍ニ進ムヲ得ヘク已ニ其前哨地ヲ奪略スレハ後方ニ陣スル本軍ニ達スルヲ得ヘ

シト之ヲ實行スルニハ惟々森林中ニ縱隊ノ經過スヘキ路ヲ開クノ一事ニアルノミ而シテ其之ヲ開通スル事業モ亦既ニ輕歩兵ノ此森林ヲ占領スルヲ以テ毫モ困難ヲ感セザリキ

ダウンノ此攻撃ヲ行フヤ警戒周密且勇猛果敢ナリダウン自ラ歩兵四十六大隊騎兵十六中隊ヲ率ヒ之ヲ三縱隊ト爲シ森林ヲ經過シテ午前四時ホーフキルフニ達セシニ敵之ヲ知ル者ナシ此時ニ方リ澳ノ部將ラウドンハ騎兵十五中隊ヲ以テメッシュウツニ赴キオドン子ルハ騎兵二十四中隊ヲ以テスタインアルフルニ赴ク其兵合セテ三萬以テ普軍ノ右翼ヲ包圍ス午前五時銃撃ヲ始ム時ニ普王ハ尚ホ敵ノ退却スルヲ信シテ疑ハス故ニ全ク敵ノ襲撃スル所ト爲レリ

澳軍ハ衆力一致シテ敵ヲ攻撃シ劇戦ノ後終ニホーフキルフヲ略取シ且ツ敵陣ヲ掩護スル所ノ砲臺ヲ奪フ此時普軍ハ之ヲ回復セント欲シカヲ盡シテ交戦スト雖モ其目的ヲ達スル能ハス終ニ敗レ退クニ至レリ此戦ヤ普王ハ士卒大約九千大砲一百一門ヲ失ヘリ

中佐フッシュウヰアルン曰ク凡ソ夜間ノ攻撃ニ於テホーフキルフノ攻撃ノ如ク其有利ノ實例ヲ證明シタル者ハ殆ント稀ナリ此時ダウンノ當ル所普軍ノ如キ勁敵ニ非スンハ其功績一層顯著ナルヤ必セリト

又曰クラオンノ戦ハ夜間襲撃ノ一例ヲ示ス者ナリ此襲撃ハ數多ナル騎兵ヲ後援ト爲シ

全二軍團ヲ以テ行ヒシ者ナレハ之ヲ研究スルハ極メテ必要ノ事トス故ニ之ヲ左ニ掲クヘシ

拿破崙ハ露軍ヲクラオン又ニ破リ後一千八百十四年三月七日ソワソン道ニ達シ之ヨリラオンニ向フ蓋シ此地ハ普將ブリューヘル十萬四千ノ兵ヲ以テ陣スレハナリ此時拿破崙親ラ率フル所ノ兵ハ三萬六千ニ過キス其右方ニハ部將マルモン一萬六千ノ兵ヲ率ヒワレンス道ヲ取テ同シクラオンニ向フ拿破崙ハ直ニ敵ヲ攻撃セシト雖モ其盡ク之ヲ撃破スルニ能ハザリキ

三月九日午後マルモンハ同盟軍ノ陣地前ニ達シアチー村ヲ奪略シテ此夜其地ニ駐止シアチー村ヨリ稍々南方ワレンス道ノ近傍ニ陣ス此日拿破崙ハエツーペールニ在リ此地ハアチー村ヲ距ル僅ニ四「キロメートル」ナリト雖モ其將マルモント聲息ヲ通スルニ能ハス拿破崙之カ爲メニ參謀官數名ヲ遣ルモ一人ノ能ク其地ニ達スルモノナシ是ヲ以テマルモンモ亦拿破崙ノ動靜ヲ知ルニ能ハス是時普將ブリューヘルハラオン府ノ高地ヨリマルモンノ率フル軍隊ノ寡弱ナルヲ視察シヨク及クライストノ二軍團兵員共三六萬人トチーテンノ騎兵六十三中隊ヲ以テ夜間マルモンノ軍隊ヲ襲撃シ以テ之ヲ破ラントス

中佐フオンウツアルン曰ク佛將マルモンガ優勢ノ敵ニ對シ僅ニ二千歩ヲ距ルノ地ニ陣セシハ速慮ナシト云ハンカ將タ冒險ト云ハンカ之ヲ説明スルニ辭ナシ況ヤ拿破崙

ノ聲息ヲ聞カサルニ於テマ然氏當時マルモンハ普將アリユールカ其軍ノ大半ヲ  
 拿破崙ニ備ヘ唯々僅少ノ軍隊ヲ以テ我ニ向フナラント思惟セシヤ疑フ可ラスト  
 九日午後八時將官ヨークハ同盟軍ノ諸隊ヲ牽テ運動ヲ始ムワルヘルム公ノ師團ハ  
 左方ヨリアチー村ニ向テ進ミ其地ニ在ルニ大隊ヲ襲撃シテ大ニ之ヲ破リホルンノ師  
 團ハ中央ヨリ潜カニ進テ佛ノ前哨ヲ距ル五百米突ノ處ニ到ル是時總指揮官ノ令アル  
 ヤ敵手ハ敵ヲ撃チ喇ハ手ハ喇ハ吹キ樂手ハ樂ヲ奏シ諸兵喊聲ヲ發シテ敵陣ニ突入  
 ス同時ニクライストノ軍團ハオランヌ道ヲ進ミ南方ヨリ佛軍ヲ迂廻ス是ニ於テ佛軍  
 ハ事ノ意表ニ出ツルヲ以テ大ニ亂レ敢テ抗拒スル者ナシゲーテンノ騎兵ハ歩兵ニ續  
 テ佛兵ヲ襲撃セント欲シアチー村ノ北方ニ於テサルモンシー河ヲ渡リクライスク其  
 南方ニ於テ行ヒシモノト同一ノ運動ニ由テ背後ヨリ佛陣ヲ襲ハントス既ニシテゲ  
 テンハホルンカ師團ノ喊聲ヲ聞クヤ直ニ進テ敵陣ヲ突ク佛兵ハ其前哨勤務ノ嚴肅ナ  
 ラサルニ因リゲーテンノ騎兵其陣營旗線ノ前面ニ到達スルヲ知ル能ハサリキ是ヲ以  
 テ騎兵ノ不意ニ突入スルヤ佛兵大ニ狼狽シ頃刻ニシテ全軍盡ク敗走シベリヨウバ  
 クニ向テエーヌ河ヲ渡ルノ後ニ至ルマテ敢テ止ル者ナクマルモンハ此時僅ニ其隊伍  
 ヲ整頓スルヲ得タリ此戰ヤ佛軍ノ死傷一千五百囚虜二万五千ノ多キニ至レリト  
 蓋シ同盟軍ハ此勝利ニ乘シ其軍ヲ轉ノ既ニ右翼ヲ失フテ段々抵抗ス可ラサル拿破崙  
 ヲ窘感セハ或ハ茲ニ戰局ヲ終ルヲ得シナラン然ルニ躊躇シテ時機ヲ失シ終ニ敵ヲ

シテ大敗ヲ免ル、ヲ得セシメタリ

中佐ボキニスラウスキカ引用シタルマンヌノ戰即一千八百七十一年一月十一日午後八  
 時ニ於テ普ノ第十軍團ノ兵チユールリノ陣地ヲ奪略シタル一事ニ在テハ今尚ホ諸人  
 ノ記憶ニ存スルヲ以テ茲ニ之ヲ記載セス  
 夜間戰鬪ハ前ニ叙述シタル如ク常ニ効力アル者ニ非ス然レモ此戰鬪ハ重要ナル結果ヲ  
 得ヘキ一亦疑ヲ容レス外國諸兵家ノ說ニ據ルニ夜間戰鬪ハ之ヲ行フテ利益アル者ナリ  
 故ニ將米ニ於テ之ヲ用フル一既往ヨリ一層多キヲ致ス可シト其兵家中大尉ジョンソン  
 ノ說ヲ左ニ摘記ス可シ

戰史ヲ閱スルニ夜間戰鬪ハ拿破崙ノ時ニ至ルマテ屢々之ヲ行ヘリ拿破崙戰爭間ハ之  
 ヲ用フル一希ナリト雖モ其後更ニ再燃セリ其然ル所以ノ理ヲ証明スル一敢テ難キニ  
 非ス夫レ夜間攻撃ヲ行フテ成功ヲ獲ントスルニハ必ス敵情ヲ詳悉スルニ足ル可キ情  
 報ヲ得サル可ラス然ルニ拿破崙ノ戰爭ヲ爲ス多クハ露營ニ由リシヲ以テフリードリ  
 ッヒ時代ニ用ヒシ嚴正ナル野營ニ於ケルカ如ク規矩アル偵察ヲ施ス一能ハス且ツ當  
 時佛兵ハ野營スルニ輕溝ヲ用フル一希ナリ之ヲ要スルニ拿破崙ノ攻勢戰術ニ在テハ  
 此偵察ヲ行フ一難シ是レ拿破崙ノ夜間戰鬪ヲ行フ希ナル所以ナリ凡ソ此類ノ攻撃ヲ  
 以テ成功ヲ獲ント欲セハ輕溝村落等ノ如キ確然タル目標アルヲ要ス然ラサレハ襲撃  
 縱隊其期セシ所ノ地点ニ至リ若シ敵兵ト遭遇セサルモハ躊躇疑懼シテ其結合カヲ失

フヘケレハナリ  
 方今戰術ノ攻勢ヲ主トスルハ拿破崙ノ戰術ニ劣ラス而シテ今日夜間戰闘ノ再燃セシ  
 所以ハ攻者ノ利害著シク變セシニ由レリ往昔兵隊ハ白晝火撃ノ下ニ運動シテ屢々其  
 攻撃方向ヲ變轉シ縦ヒ敗ル、モ守兵近ク之ヲ追躡スルニ非サレハ數時ヲ出テスシテ  
 其追及ヲ免カル、ヲ得タリ然レモ夜間攻撃ニ於テハ軍隊一タヒ方向ヲ定ムルハ優  
 タ他ニ轉スル能ハサルカ故ニ其運動ノ性能ヲ減却スルノ大害ヲ生シタリ  
 方今ハ之ニ反シ晝間歩兵ノ火撃ヲ冒シテ運動スルノ難シ又初二撰定シタル地点ヨリ  
 他点ヲ攻撃スルノ必要アル時ハ更ニ他ノ兵ヲ用ヒサルヲ得ス而シテ砲銃ノ有效射距  
 離及射撃ノ速度往時ニ三倍スルカ故ニ縦隊一回侵襲ヲ行ヒ其功無キハ砲彈或ハ銃  
 丸ノ爲メ速ク追撃セラレテ急ニ隊形ヲ更ムル能ハス然ルニ夜間ハ之ニ反シ敵ハ至近  
 ノ距離ニ非サレハ其砲銃ヲ用フル能ハス我兵ハ殆ント晝間ノ如ク運動スルヲ得可  
 シ  
 「インワリッド」新聞モ亦夜間戰闘ノ事ニ就キ一説ヲ載セタリ今之ヲ左ニ摘記スヘシ  
 夜間戰闘ノ利益ハ晝間敢テ用フ可ラサル企圖ヲ施行シ得ルニ在リ火器愈々精巧ナレ  
 ハ其効力ヲ避クル爲メ夜間戰闘ヲ行フニ愈々多キニ至ルヘシ果シテ然ラハ銃劔ヲ以  
 テ主兵ト爲スハ必然ノ理ナリ白兵ノ戰闘ニ於テ匹敵ナキ露兵ノ爲メニハ特ニ有利ナ  
 ル戰闘法ト謂フ可シ

射撃ノ疾速ナル火器ニ對シテハ晝間攻者ノ敵ニ近通スルノ頗ル困難ナル可ク其行進  
 中屢々扼止セラル、トアルヘシ攻者ハ（縦ヒ守者ノ照準正シカラサルモ）其彈丸雨注  
 ノ下ニ死傷スル者極メテ多ク爲メニ退カサルヲ得サルニ至ルヘシ之ニ反シテ夜間ニ  
 攻撃ヲ行ヘハ劇烈ナル火撃ヲ受クヘキ距離ヲ危殆ナク通過シ得ルヲ以テ晝間ニ於ケ  
 ルカ如キ困難ヲ受クルトナシ敵ノ陣地ヨリ僅ニ數歩ヲ距ル處ニ達シテ始メテ損害ヲ  
 受クルノミ是レ敵兵預メ攻者ノ近クヲ知ル時ト雖モ此距離ニ至ルマテ攻者ハ殆ント  
 有効ノ射撃ヲ受クルトナキヲ以テナリ  
 夜間攻撃ノ利惟々此一二ニ止ラヌ晝間ノ戰闘ニ於テハ守兵遙ニ攻者ノ配備ヲ望見シ  
 テ其兵ノ衆寡ヲ偵知スルヲ得可ク其企圖ヲ推測ノ力籌策ヲ施スヲ得可シト雖モ夜  
 間ニ於テハ全ク然ラヌ一小隊ノ兵モ時トノハ一聯隊ノ功ヲ奏スルヲ得可ク敵ハ却テ  
 毫モ依據シテ其推測ヲ爲ス能ハス是レ夜間攻撃ヲ行フ利益ノ大ナル者トス夫レ人ハ  
 不意ノ事ニ際シ驚愕セサルモノナク而シテ其驚愕ハ往々逃走ノ基トナルモノナリ  
 夜間ニ在テハ攻者失敗スルモ退却スルノ容易ナリ何トナレハ敵ハ咫尺ヲ辨セサルヲ  
 以テ伏兵ニ遇フノ恐ヲ懷キ晝間ニ於ケルカ如ク劇烈ナル追躡ヲ行ハサルヲ以テナ  
 リ

英國歩兵操典中夜間攻撃ヲ論シテ其利益アルヲ云ヘリ今之ヲ左ニ抄セン  
 夜間攻撃ハ最初敵ヲシテ安息スルヲ得サラシメ次テ敵ノ隊列中ニ錯雜ヲ生シ攻者ノ



決心愈強固ナルニ從ヒ其擾亂益々甚シキヲ以テ敵ノ心神ヲ沮喪スルノ利益アリ而シテ此類ノ作戰ヲ巧ニ施行スルハ我兵ノ志氣ヲ振起スルヲ實ニ大ナリトス

夜間攻撃ハ有形上ニ就テモ亦其利益少カラズ此攻撃ハ唯々襲撃ノ一事ニ止ルヲ以テ總テ戰鬪初期ノ變遷ヲ踐マス隨テ時間ヲ省略スルノ利アリ且ツ守者此攻撃ニ對シテ其火撃ノ威力ヲ逞フスルヲ得サルカ爲メ晝間戰鬪ノ如ク損害ヲ被フルト少シ

伊太利ニ於テモ亦夜間戰鬪ノ利アルヲ唱フル者多シ伊太利兵事新報ニ一説ヲ載セテ曰ク余輩ハ全ク晝間ノ攻撃ヲ非トスルモノニ非ス然レモ勝利ヲ誤ラス死傷ヲ減スルヲ目的トシテ戰ハントセハ軍隊殊ニ歩兵ヲシテ夜間戰鬪ニ訓練セシムルヲ要スルハ今日諸人ノ唱道スル所ナリ夜間攻撃ノ困難ナルハ言ヲ俟タスト雖モ巧ニ之ヲ施行スルハ縦ヒ優勢ノ敵ニ對スルモ常ニ其巧ヲ奏シ我ニ損害ヲ受クルヲ極メテ僅少ナリトス近世ノ戰爭ニ就テ考フルニ兩敵其數相同シクシテ其兵事ニ訓練スル度モ亦相等シケレハ夜間ノ運動ヲ能クスル者常ニ勝ヲ制スヘキニ似タリト

大尉ジョンソン死傷ヲ減スル目的ヲ以テ説ヲ爲シテ曰ク射撃迅速及彈道延伸ノ火兵ヲ以テ闇夜ニ戰フハ死傷ヲ減少スルヲ得可シ是レ命中正確ナラサルニ由ルニ非ス戰鬪變遷ノ短縮スルニ由ルナリ夫レ火兵精巧トナリ其操法愈々緻密ナルハ暗夜ノ命中ヲ害スル益々大ナリトス然レモ彈道低伸ノ大ナルト射撃迅速ナルトノ利アルヲ以テ此害ヲ償フ可シ何トナレハ彈道低伸ノ大ナルハ有効距離ニ於テ照尺ヲ用フルヲ要セス發射

ノ迅速ハ戰場ノ全面ニ彈丸ヲ雨注スルヲ得レハナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ死傷ハ殊ニ戰鬪變遷ノ短縮ニ由テ減少ス可キニ似タリト

英國參謀本部ニ於テ發行シタル一千八百八十二年埃及戰史中ラル、エルケビール戰ノ篇ニ左ノ文アリ

英將ガ―子ツトオルセレイハ常ニ夜間攻撃ヲ信用セリ其言ニ曰ク凡ソ熟練ナル兵卒ニシテ底裝銃ヲ携帶シ堡壘ヲ守備スル時之ニ近接セントスルニ當リ危險界ヲ經過シ死傷ヲ受クル僅少ナルノ法ハ唯々夜間攻撃ノ一アルノミ攻撃縱隊ヲシテ迷テ道ヲ失ハシメサルトニ注意セハテル、エルケビールノ地勢ハ此種ノ作戰ヲ行フニ適セリ

前文ニ掲クル所ニ就テ斷定ヲ下スルハ將采ノ戰爭ハ夜間攻撃ヲ用フル屢々ナルニ至ルヘシ此攻撃ニ由リ成功ヲ獲ント欲セハ特別ノ方法ヲ以テ之ヲ準備シ之ヲ施行セサル可ラス故ニ其應用ス可キ原則ヲ研究スルハ實ニ當今ノ要務トス

英國步兵操典ハ左ノ六項ヲ以テ軍隊ノ指揮官夜間攻撃ヲ敢行スヘキ主要ノ理由ト爲セリ

其一 軍隊ノ勇武及軍紀

志氣ノ弛廢シタル軍隊若クハ戰爭ノ實驗ナキ軍隊ヲ以テ闇夜ニ戰鬪ヲ行ハントスルハ危險ナリト謂フ可シフリードリッヒ二世カ夜間闇黒中ニ戰鬪ヲ爲スルハ必ス多少ノ錯

雜ヲ起シ且ツ兵卒ノ多分ハ將校ノ眼前ニ於テノミ其義務ヲ盡サントスル心アルヲ以テ  
余ハ嘗テ夜間戦闘ヲ行フノ決意ヲ起スナシト云ヒシハ茲ニ見ル所アルヤ疑ヲ容レス

其二 敵ノ怠慢及其不熟練  
前哨勤務ノ不完全ナルハ常ニ之ヨリ生ス

教育完全ナラサル軍隊若クハ志氣ノ弛廢シタル軍隊ハ事物ニ感動シ易ク且ツ警備常ニ  
周密ナラサルモノナリ此ノ如キ隊ニ對シテ夜間襲撃ヲ行ヘハ常ニ勝利アルヲ以テ將校  
タル者ハ好時機ヲ察知シ躊躇セス之ヲ襲撃スヘシ

一千八百十四年ラオンノ戰ニ於テ生シタル事件ハ應サニ前説ヲ證スルニ足ルヘシ大尉  
ジョンソンノ云ヘルカ如クアリューヘルノ攻撃ハ専ラマルモンカ守備ヲ怠ルニ由テ功  
ヲ奏セリ

一千八百八十二年テル、エル、ケビールニ於テ英將オルセレイカ夜間攻撃ヲ行ヒ其功ヲ  
奏セシハ埃及兵カ其前哨勤務ヲ懈ルニ由ルナリ

大尉ジョンソン曰ク英將オルセレイハ毎日黎明其參謀ト共ニ敵ノ堡壘前ヲ巡視セシニ  
埃及ノ前哨ハ日出ニ至ラサレハ線外ニ出テサルヲ目撃セリ是レ英將オルセレイカ夜間  
襲撃ヲ行フニ決シタル所以ナリ

其三 居民ノ心ヲ得ル

政者危險ノ最モ大ナルモノハ敵ヲシテ其謀圖ヲ發見セシムルニ在リ故ニ政者ハ其地方

人民ノ幫助ヲ得ルノ最モ緊要ナリ遠隔ノ地ヨリ此作戰ヲ行ハントスル時ハ殊ニ然リ  
トス

一千八百六十四年三月二十八日アッセンドループノ戰鬥ハ明ニ此事ヲ證スルニ足ル其  
戰左ノ如シ

三月二十七日午後陣馬ノ歩兵二百名フレデリシヤニ於テ乘船シ二十八日早朝ローセ  
ンワルドノ近傍樹林ノ密閉セル處ニ上陸シ五十人ハ留テ船ヲ守リ百五十人ハ前進シ  
近隣ノ一村ニ至テ潜伏ス是ヨリ午後鑛道ニ由テダンガルドニ赴キ夜半アッセンド

ループ村ニ向テ行進シ村ヲ距ル二百歩ノ處ヨリ諸兵突進シテ村中ニ闖入シ此ニ陣ス  
ル普魯兵將校一名  
兵七十名ト戰フニ僅ニ五六分時兵卒二十四名馬匹二十五頭ヲ虜獲シテ退却シ翌  
朝ローセンワルドヨリ乘船セリ

此襲撃ハ遠距離ヨリ行ヒシト雖氏人民ノ幫助ヲ得タルヲ以テ其功ヲ奏シタリ

其四 敵陣ノ脆弱

大尉ジョンソン曰ク守兵ノ寡少ナルト側防ノ設ナキト堡壘ノ高度足ラスシテ攀登ノ容  
易ナルト等ハ主トシテ此脆弱ノ原因ナリト

一千七百四十一年ニ於ケルブラーグ及一千七百六十一年ニ於ケルシニワイドニツノ戰  
闘ハ守兵僅少ニシテ其堡壘ヲ守ルニ足ラサリシ又一千八百七十七年カルス城ニ於テハ  
之ニ反シ別堡ノ構造完全ナラサルト側防ノ設ナキトニ由リ竟ニ降陷スルニ至レリ

其五 敵ノ近隣

敵ノ近隣ニアル時ハ擾亂及方向ノ迷謬ヲ減少ス  
 此説タル事理適切ナルモノニ非ス大將マルモンハ之ヲ以テ真理ニ合スルモノト爲スト  
 雖氏長途ヲ行進シテ後夜間攻撃ヲ行ヒ其功ヲ奏セシ其例少シトセス  
 大尉ジョンソン曰ク一千七百九十二年セリンガバタムニ於テロルドクローンワリス  
 ハ八千ノ兵ニ將トシ夜間五英里ノ途ヲ行進シシルタシチボーノ陣地ニ達シテ之ヲ破  
 リ後直ニ其府城ヲ攻圍セリ一千八百十三年六月三日英國ノ枝隊ハストニイクリーク  
 ノ哨所ヲ襲撃ス可キノ命ヲ受ケ行ク一七英里ニシテ敵地ニ達シ午前二時之ヲ攻撃シテ  
 大ニ勝利ヲ得タリ同年十二月十九日英兵ハ三英里ヲ行進シタル後夜間「ナイヤガラ」堡  
 ヲ襲撃セリ  
 一千八百七十八年亞弗業斯坦ノ役ニ就テ少佐コルコウノ著シタル書中夜間作戰ニ於  
 テ遭遇スル所ノ困難ヲ示セリ今其全文ヲ抄スレハ左ノ如シ  
 一千八百七十八年十一月英軍ハ少將ロベルツ之ヲ指揮シテ亞弗業斯坦ニ進入セン  
 カ爲メグルラムノ谷地ヲ經過シ二十八日ヘーワルコタルノ高處前ニ達ス時ニ敵兵ハ  
 谷地ヲ叢射スヘキ堡壘ヲ此高處ニ設クルニ遇ヘリ英將ハ各處ニ偵察兵ヲ出シテ地形  
 ヲ詳悉スルノ後正面攻撃ヲ以テ敵陣ヲ略取ス可カラスト做シスビンガウ道ニ由リ  
 北方ヨリ迂迴運動ヲ施スノ良策ナルヲ確信シ十二月一日ノ夜ヲ期シテ此運動ヲ行ハ

亞弗業  
斯坦遠  
征

ントス

是ニ由テ英將ハ其軍ヲ二縱隊ニ分チ第一縱隊ヲ以テ迂迴運動ヲ行ハシム其兵力ハ即  
 チボンジャア人ヲ以テ編成シタル歩兵第二十九聯隊グールカス第五聯隊山砲兵第一  
 中隊ハイランダ一歩兵第七十二聯隊ノ半大隊ボンジャア人歩兵第二聯隊工兵第二十  
 三聯隊騎砲兵四門象背ニ厭是ナリ第二縱隊ハ正面ヨリ伴撃ヲ行ハシム其兵力ハボンジ  
 ヤア人歩兵第五聯隊歩兵第二聯隊ノ二大隊騎砲兵一小隊駕砲兵半中隊メンガル騎兵  
 第十二聯隊是ナリ  
 英將ロベルツハ其計畫ヲ隱匿シ且ツ敵ヲシテ正面攻撃ノ恐怖ヲ抱カシメン爲メツル  
 レーノ近傍ニ砲臺ヲ築カシム  
 へーワルコタルハ亞弗業斯坦兵ノ陣地ノ中心ナルニ因リ堡壘ヲ匝ラシ大兵ヲ以テ之  
 ヲ固守ス其右翼モ亦堅固ニ山險ニ依據シ唯々左翼ハ之ニ反シ稍々近ツキ易シ故ニ英  
 兵カ主トシテ實力ヲ盡スヘキハ即チ此点ナリトス  
 英將ロベルツハ初ヨリ此作戰ヲ秘スルノ用意周到ナルヲ以テ英ノ陣營ニ於テモ實行  
 ノ時ニ至ルマテ其計畫ヲ知ル者ナシ  
 十二月一日午後十時第一縱隊ノ諸兵ハ靜カニ其陣營ヲ發ス此夜暗天片雲ナシト雖氏  
 極メテ暗黒ナリ各聯隊ハ其預備彈藥ト繙帶所トヲ隨行セシム小佐コルコウ論シテ  
 曰ク是レ大ナル過誤ナリ何トナレハ各聯隊ハ其後方ニ戰鬪行李ヲ有スル極メテ便利

ナリト雖其隊中ニ馱馬ヲ雜フルハ大ニ夜間行進ノ困難ヲ増スノ患アレハナリ故ニ  
 戰鬪行季ハ別ニ一縱隊ニ集合スルノ愈レルニ如カスト  
 ボンジャア歩兵第二十九聯隊ハ縱隊ノ先頭ト爲リグールカス第五聯隊之二次キ山砲  
 兵中隊ハイランダー歩兵半大隊ボンジャア歩兵第二聯隊及象背ニ馱シタル砲四門又  
 之二次キ工兵第二十三聯隊之ヲ護衛ス其進行スルヤ初メハ困難ニ遭遇スルヲナク中  
 夜ニ至テスビンカウ\*ノ凹路ニ達セリ  
 英將ロペルツハ其出發ヲ午後十時ト定メタルヲ以テ途中大休憩ヲ爲スノ間暇アラン  
 ト思ヒシニスビンカウ\*ノ凹路ニ至ルマテ其行進緩徐ニシテ經過セシ路程未タ三英  
 里半ニ過キス故ニ黎明前ニ其運動ヲ施行シ了ル能ハスシテ襲撃ノ利益ヲ失ハンヲ  
 恐レ大休憩ヲ爲スノ暇アラサリシ  
 此縱隊ハ隊中ニ馱獸アルヲ以テ各縱隊間ノ距離ヲ保持スルヲ殊ニ困難ナリ縱隊ヘ  
 ワル村ニ達スルヤスビンカウ\*ノ傾斜ヲ攀登スル爲メ左方ニ迂廻セサルヲ得ス時ニ  
 ボンジャア歩兵第二聯隊ハ道ヲ誤リ良好ノ道路ヨリ進ミタル縱隊先頭ニ跟隨セスノ  
 直進シ是ニ由テ後方ヨリ繼進スル諸隊モ亦其道ヲ誤ル幸ニ進ム久シカラスシテ其  
 誤ヲ覺知シ本道ニ復歸セシト雖其之レカ爲メ時間ヲ消費スル少カラス既ニシテスビ  
 ンガウ井ノ頂上ニ登ルニ從ヒ道路次第ニ峻峻ト爲リ且ツ處々ニ龜裂アリ其深サ三尺  
 或ハ四尺夜色益々闇ク豫メ之ヲ避クルヲ得ス是ニ由テ行進極メテ緩徐ナリ

ペーワル村ヲ出發シ幾ント一英里半ニシテ縱隊ノ先頭即ボンジャア歩兵第二十九聯  
 隊ノ方ニ二發ノ銃聲ヲ聞ク  
 英ノ參謀部將校ニハ此銃聲ヲ聞キ大ニ驚愕ス蓋シ敵兵ヲ覺起シ奇襲竟ニ畫餅ニ屬ス  
 可ケレハ英軍直ニ發銃者ヲ搜索スト雖其之ヲ獲ス後數日終ニ之ヲ逮捕シ其發銃シタ  
 ル所以ヲ詰問セシニ彼ハ亞弗萊斯坦人ト同ク回々教徒ナルヲ以テ同宗徒ノ危厄ニ陷  
 ルヲ見ルニ忍ヒス預メ之ヲ知ラシメントスルノ意ニ出シヲ陳述ス因テ之ヲ軍法會議  
 ニ送附セリ其後犯者ハ何等ノ罰ニ處セラレシヤ少佐コルコウンノ記録中ニ見ヘス  
 幸ニシテ此發銃ハ英軍ノ大禍害トナルニ至ラス敵ノ歩哨ハ銃聲ヲ聞キ急ニ其哨兵司  
 令ニ告クト雖其司令ハ之ヲ意トセス他ニ又疑フヘキ響音ノ其耳聒ニ達セサルカ故ニ  
 怠テ之ヲ其本隊ニ告ケス是ニ由テ敵ニ英軍ノ運動ヲ知ル者ナシ  
 英軍ハ更ニ行進スルニ之カ障礙ヲ爲ス者ナシト雖其再ヒ不慮ノ變ヲ生センヲ慮リ  
 ボンジャア歩兵第二十九聯隊ヲシテ縱隊ノ先頭ヲ去ラシメ之ニ代フルニグールカス  
 第五聯隊ヲ以テセリ  
 英軍六時ニ至リ始メテ敵堡ニ通スル山路ヲ攀登シ敵ノ歩哨線ニ達ス此時ヨリシテ既  
 ニ其謀圖ヲ隱匿スル能ハス故ニ夜尚ホ闇シト雖其戰鬪ヲ開始シ連リニ敵ノ堡壘ヲ攻  
 略ス敵兵ハ各地ニ窮蹙セラレ又英ノ第二縱隊正面ヨリ攻撃スルニ達ヒ其退路ヲ斷シ  
 トスルヲ恐レ防戰終日ノ後陣地ヲ棄テ敗走セリ

其六 森林其他隱蔽物

森林其他隱蔽物アルハ攻者ヲシテ其運動ヲ隱匿セシムルヲ得ヘシ  
 澳地利軍カホーフキルフニ於テ森林ニ依リ其迂迴運動ヲ隱匿セシムルハ既ニ前文ニ説ク  
 カ如シ大尉ジョンソン曰ク一千七百九十九年リンマートノ通路一千八百十四年エト  
 ジノ戰鬪一千八百六十四年アツセンドループノ戰鬪一千八百七十一年ベホール城攻圍  
 ノ時獨逸軍ノ行ヒシダンジョータンノ奇襲ニ於テモ攻者皆森林ヲ蔽障トシテ敵眼ニ觸  
 ル、トナク近接スルヲ得タリ  
 英國歩兵操典ハ又左ノ三項ヲ以テ夜間襲撃ヲ廢止スヘキ理由ト爲セリ

其一 敵兵ノ強固及勇武

夜間攻撃ヲ行ヒ屢々敗ヲ取ル一原因ハ防禦兵ノ強固ナルニ在リ一千七百二年ウーゼー  
 ヌ公クレモ一又ニ於テ佛ノ守兵ヲ襲撃セシ時其守兵始メハ奇襲ニ遇ヒ退クト雖氏終  
 ニ其地ヲ恢復シテ大ニ澳軍ヲ破レリ大尉ジョンソン曰ク一千八百十四年ノベルグオ  
 プツォーム一千八百六十四年ノヂュッヘル其他ノ戰鬪ニ於テ守兵勝利ヲ得シハ全ク守  
 者ノ勇敢ナルニ因レリト

一千八百六十四年三月二十八日午前三時普魯士ノ二縱隊各々步兵三大隊ヲ以テ編成レ  
 多數ノ預備隊之カ後ト爲ルハヂュッ  
 ペールニ布陣スル雖馬兵ヲ侵撃セント欲シソナルアルグ道ニ由テ行進ス雖兵ハ敵ヲ  
 シテ斜堤ニ近ツカシメ銃劔ヲ以テ不意ニ突出シ戰フ一三十分ニシテ之ヲ驅逐ス普兵ハ

更ニ襲撃ヲ行フト雖氏雖馬ノ野砲兵一中隊ハ普兵ノ左翼ニ出テ頻ニ霰彈ヲ放射スルヲ  
 以テ普兵之ニ抗スルヲ能ハス終ニ退却シタリ此戰鬪ニ於テ普兵ノ死傷及囚虜トナル者  
 將校二十四人兵卒四百二十七人ニシテ雖馬兵ノ死傷ハ將校八人兵卒二百人ニ過キス

其二 攻者ノ軍紀立タス或ハ教育ノ完全ナラサル

此說ニ就テハ余輩斯ニ贊言ヲ須フルヲ要セス凡ソ兵ニ將タル者ハ教育ノ足ラサル軍隊  
 又ハ志氣ノ弛廢シタル軍隊ヲ以テ夜間攻撃ヲ行ハサルヘシ是レ自ラ敗ヲ招クノ道ナレ  
 ハナリ

其三 敵ノ陣地ノ情報ヲ得サル

「インワリード」新聞ニ曰ク凡ソ陣地ヲ攻撃セント欲セハ其陣地ノ如何ヲ問ハス必ス預  
 メ詳密ニ偵察セサル可ラス而シテ之ヲ行フヤ始メ晝間ニ於テシ次テ夜間ニ於テス可シ  
 攻者ハ惟々敵ノ陣地ヲ偵察スルノミヲ以テ足レリトセス其陣地ニ達ス可キ道路ト行進  
 中超過ス可キ障礙物トヲ詳悉セサル可ラス攻者此ノ如ク能ク偵察スル時ハ夜間攻撃中  
 ニ生スル一危殆即チ迷路ノ患ヲ避クルヲ得可シ一千八百七十七年露兵エルセルムノ  
 襲撃ニ失敗セシハ專ラ攻撃縱隊ノ司令官カ其堡壘ニ達スヘキ道路及地形ヲ偵知セサル  
 ニ因ル露軍ノ總督ハ十月二十三日ヨリ二十八日ニ至ル五日間エルセルムノ前面ニ駐  
 軍セシモ其前方ニ在ル地形ヲ偵察セシムルニ意ヲ用ヒサリシハ實ニ驚クニ堪ヘタ  
 リト

「インワリド」新聞ニ此時全ク偵察ヲ行ハサルモノ、如ク論スルハ恐クハ少シク過言ニ失スルニ似タリ今此事ニ関シ露將シトコフノ報告ヲ記シテ証明スヘシ曰ク此襲撃ニ與リタル縱隊及隊ノ諸司令官ハ十月二十七日一説ニ十月八日大偵察ヲ行ヒ市府ヨリ銃丸ノ達スル高處ニ到リ露ノ諸將校ハ各堡ニ通スル所ノ道路ヲ詳ニ望見シタルヲ以テ迷謬ノ患ナキカ如シト蓋シ露ノ將校ハ細密ニ此道路ヲ偵知スルヲ無益ナリトシ尚ホ進ンテ偵察ヲナサス此日縱隊ノ參謀長タル大佐ボイノフハ大佐アミラギボフ及バクウ聯隊エリサベトボル聯隊ノ將校ヲ一地点エルセルム下ニ誘導シ各堡ノ形状ヲ指示シタリ然ラハ則チ此指示説明ハ露兵ノ攻撃ヲシテ功ヲ奏セシムルニ足ルカ如シ又曰ク此情報ハ不完全ノ偵察ニ出テ口演ノ説明ヲ附シタル者ニシテ自ラ得タル者ニ非ス自ラ得タル情報ニ非サレハ夜間ニ攻撃ヲ行フテ其功ヲ奏スル能ハサルナリト

一千八百八十二年埃及役ノ戰史著者ハ此事ニ就キ論シテ曰ク夜間襲撃ヲ以テ功ヲ奏スル一要領ハ敵陣前方ノ地形ヲ知悉スルニ在リ能ク此要領ヲ遵守セシテ蓋シタル、エル、ケピルニ於ケルカ如キハ希ニ見ル所ナリ印度騎兵及中佐チコロツクノ偵察ハ能ク許多ノ情報ヲ得シノミナラス大佐レドベルビユルハ九月九日敵ヲ追躡シタル、エル、ケピル線ノ左端ヲ迂廻シ堡壘ノ構造及經路ヲ偵知シ是ヨリ先キ大佐レドベルビユルハ運河ノ近傍敵ノ右翼ヲ偵察セリ將官オルセルレイハ此情報ニ由テ敵ノ堡壘ニ達スル爲メ經過ス可キ距離ヲ精確ニ測算スルヲ得タリ此距離ハ六千六百六十「ヤード」即六「キロメートル」

ル「百二十七」メートル」ナリ而シテ前キニ行ヒタル行進ニ基キ遲滞ヲ起ス諸原因ヲ斟酌シテ之ヲ算スレハ夜間行進ノ速度ハ一時間大約一英里即一千六百九「メートル」ナルヲ以テ出發ノ時ヲ午前一時三十分ト定メ將ニ黎明ニ至リ襲撃ヲ行ハントス

大尉ジョソソソ曰ク凡ソ敵眼ニ觸ル、ニ非サレハ偵察ヲ行フ能ハサル一時トシテ之アリ此場合ニ於テハ勉メテ秘密ニ動作セサルヲ得ス故ニ間諜ヲ使用スルカ或ハ逃亡者ノ言ニ由ラサル可ラス此ノ如キ方法ニ由テ得タル情報ヲ妄リニ採用スルハ大ニ過誤ヲ生スルノ恐アルヲ以テ勉メテ其實ヲ審ニシテ後之ヲ採用スヘシ然レハ斷然之ヲ排斥スルハ不可ナリ何トナレハ戰史中持リ此情報ニ由テ襲撃ヲ行ヒ成功ヲ得タルノ例許多アレハナリ

凡ソ時機ノ如何ヲ問ハス將官タル者ハ預メ偵察ヲ行ハスシテ夜間攻撃ヲ行フ可ラス唯緊急已ムヲ得サル時ハ特リ例外トス

英國歩兵操典ニ曰ク凡ソ偵察ハ順序ヲ逐テ行フ可キ者ナリト雖モ殊ニ次ノ諸点ニ注意シテ施サ、ル可ラスト

- 一 敵ノ前哨線ノ遠近歩哨控兵及大哨ノ位置其兵員
- 一 本陣地ト前哨トノ交通路縱隊ノ超過ス可キ天然若クハ人造ノ障礙物
- 一 迷路ノ恐アル十字路及其他ノ地点前哨ヲ迂廻シ得ヘキ道路

將官ハ此等ノ情報ニ據リ事理明瞭ナル攻撃ノ計畫ヲ立ツ可シ

英國歩兵操典ニ敵ノ注意ヲ喚起シ襲撃ヲ妨害セシムル事變ハ夜間攻撃ノ功成ラサル原因トシテ記載セリ此事變ハ許多アリト雖氏次篇ニ於テ説クアル可シ  
 前文ニ於テハ唯々夜間戦闘ニ其結果ノ及フヘキ特別ナル原因ヲ叙述シタルノミ晝間戰鬥行軍ニ影響ヲ及ス原因ハ夜間暗黒中ニ於テ一層果敢ヲ要スル一固ヨリ論ヲ談タス晝間ノ作戰ハ本書ノ目的ニ非サルヲ以テ今茲ニ之ヲ論セス唯々此篇ノ結論トシテ大尉  
 ジヨソソノ説ヲ掲ク可シ其説ニ曰ク夫レ夜間襲撃ヲ行フニ便利ナル機會ナキ時ハ之ヲ止ム可シ然レ此説ハ一定不變ノモノニ非ス其襲撃ヲ行フ可キト否トハ時ノ情勢ニ應シテ判決セサル可ラス要スルニ襲撃ヲ行ヘハ果シテ敵兵ノ擾亂ヲ惹起スルニ足り而シテ我兵ニハ決シテ此恐ナキ機會ヲ以テ便利ナル時ト断定シ之ニ反スルヲ不利ナル時機ト断定ス可シ

凡ソ兵ニ將タル者夜間襲撃ヲ決行スルニ方リ適用スヘキ理由ト又之ヲ中止スヘキノ理由トハ既ニ前條ニ於テ説明シ又一旦作戰ニ決スルハ進軍前勉メテ敵ノ動靜ヲ探リ其實況ヲ知悉スルノ缺ク可カラサル一モ亦既ニ説明シタリ故ニ今茲ニ戰鬥戰術ノ要領ヲ論シ其缺ヲ補ハントス  
 軍隊ノ長タル者ハ其得ル所ノ情報ニ據テ攻撃ノ計畫ヲ立ツ可シ此計畫ハ専ラ簡單ナルヲ要ス是レ計畫錯雜ナルハ屢々騷擾ヲ生シ此ヨリシテ忽チ敗績ヲ招クノ患アレハナリ然ラハ其計畫ヲシテ簡單ナラシムルノ方法如何シテ可ナルヤ英國歩兵操典ニ説アリ

曰ク攻撃隊ノ數寡ク其兵員モ亦僅少各隊隊一ニシテ且明瞭ナル目的ヲ有シ其進スヘキ道路暗黒中ト雖氏容易ニ識別シ得ルハ能ク攻撃計畫ヲ立ツルヲ得可シト  
 大尉ジヨソソノ曰ク夜間作戰ノ畫策ヲ完成セントスルニハ専ラ簡單ナラサル可ラス故ニ獨立數隊ノ連合ニ因テ勝利ヲ獲ントスル一ハ首トシテ之ヲ忌避ス可シ一千七百二年ニ於ルクレモ一々一千八百十四年ニ於ルベルグオンソーム一々一千八百七十七年ニ於ルエルゼルム等ノ諸戰ハ此過誤ニ因テ敗北セリト  
 又曰ク然レ此規則タル一定不變ノモノニ非ス之ヲ實驗ニ徴スルニ哨所ヲ襲撃スルニ方リ守兵ノ退却線ヲ斷シカ爲メ時トシテ陣地ノ後方ニ一隊ヲ派遣シタル一アリ一千八百八十二年テル、エルケビルニ於テ英國軍ハ數隊ニ分レテ襲撃ヲ行ヒシト雖氏其功ヲ奏スルニ妨害ヲ受ケサリキト  
 一千八百八十二年埃及役ノ戰史著者ハ此時機ニ於テ採用シタル措置ヲ證明スル一左ノ如シ

實驗ニ據ルニ我軍隊敵兵ニ比シテ甚タ寡少ナル時ト雖氏敵ノ睡眠ニ乘シテ之ヲ襲撃セハ勝利ヲ獲ルヤ疑ナシ戰術ノ目的ヲ以テ觀察スルニ一軍ヲ襲撃セントスルニハ其軍我ヲ扼止センカ爲メ陣地ヲ占領スル時不意ニ之ニ攻撃セハ縱ヒ其軍亦第一回ノ突撃ヲ受ケサルノ前兵器ヲ執ルト雖氏之ヲ襲撃スル一ヲ得ヘシ何レノ場合ヲ論セス攻者ハ最初利益ヲ獲ルモノナリ是レ其奮進ノ勢ヲ以テ動カサル敵陣中ニ突入スルヲ

以テナリ攻者一四襲撃ヲ行フ後其團結カヲ失ヒ其新ニ占領セシ位置第二線堡壘ノ火撃ニ曝露シ豫備隊ノ逆襲ニ罹ルルハ攻者ノ情勢危殆ト爲ル可シ然レハ一旦襲撃ヲ受タル軍隊ハ逆襲ヲ行フ難シ此ノ如キ場合ニ臨ミ將校ハ部下ノ兵ト其所在ヲ同フセサルヲ以テ必要ナル命令ヲ下スヘキモノナシ故ニ凡ソ攻者第一ノ襲撃ニ其功ヲ奏スルハ遂ニ全勝ヲ獲ルモノナリ

前條ノ論旨ヲ以テテルエルケビルノ襲撃ヲ考察スルニ其結論ハ各点ヲ攻撃スルノ勢力ヲ過度ニ減殺セスシテ同時ニ諸点ヲ攻撃シ以テ勝利ヲ數点ノ中ニ求ムルニ在リ首長將官カ其計畫中歩兵二師團ニ全ク獨立ノ作戰場ヲ指定シタル所以ハ職トシテ是ニ之レ由リシナリ蓋シ將官ハ縦ヒ此二師團中事故アリ適宜ノ時機ニ於テ攻撃ヲ施シ能ハサルモ其影響延ヒテ他師團ニ及フナク其任務ヲ果スニ毫モ錯雜擾亂ノ患ナカラシメンカ爲メリ

故ニ長遠ノ距離ヲ以テ二師團ヲ配置シ其兩間ニ軍團ノ砲兵ヲ集團シタリ砲兵ヲ以テ歩兵ノ攻撃準備ヲ爲スノ夜間ノ戰鬥ニ在テハ素ヨリ施シ能ハサルヲ明ナリ此場合ニ於テ歩兵ハ極メテ靜肅ニ隱匿シテ敵陣ニ近通ス可シ然レハ時機ニ依リ砲兵モ亦歩兵ニ劣ラサル効力ヲ顯ハセシナキニ非ス

余輩ハ前日ノ經驗ニ由リ我大砲ノ埃及軍隊ニ對ノ偉功ヲ奏セシヲ證明シタリ此時我四十二門ノ大砲ハ日出ノ頃敵ノ堡壘近傍ニ達シ有効ノ射撃ヲ行フテ師團ノ集合ヲ

蔽護シ或ハ攻撃ノ目標点ニ在ル敵ノ抵抗カヲ挫折シ或ハ歩兵ヲ援助シテ其侵襲ヲ容易ナラシメシト蓋シ疑フ可ラス

一千八百八十二年刊行ノ外國兵事新聞中英將オルセレイカテルエルケビル戰爭後久シカラスシテ其政府ニ報告シタルモノヲ記載セリ此報告ハ余輩カ論スル所ノ目的ニ関シ必要ナル事項ヲ記載スルヲ以テ讀者ハ本紙ニ就テ知悉スヘシ

英兵ハ一千八百八十二年ニ於テ功ヲ奏セシト雖モ土耳其兵ハ之ニ反シ一千八百七十七年九月十七日ノ夜露西亞兵カ守ル所ノシブカノ通路ヲ奪ハント欲シ數縱隊ヲ以テ攻撃スト雖モ露軍ノ爲メ撃破セラレテ其目的ヲ達スル能ハサリキ

一千八百七十七年九月中旬土將シクレイマンバシヤハシブカノ通路中露兵重要ノ依據点タルセントニコラス山ヲ拔カント欲シ其山ノ周圍ニアル樹林中ニ掩蔽シタル白砲々臺ヲ築カシム此砲臺ハ露ノ堡壘ニ向テ劇烈ナル火撃ヲ爲シ露兵ハ之ニ應射スル能ハサル如ク築城セリ土兵ハ同月十二日砲撃ヲ開始シ間斷ナク射撃シテ十七日ニ至リ遂ニ侵襲ヲ行ヘリ英國大尉ホスエル著ス所ノ露土戰記中此戰況ヲ記載セリ今其文ヲ左ニ抄セ

土將シクレイマンバシヤ以爲ク白砲ノ射撃ニ因テ大ニ露ノ堡壘ヲ破碎シ之ヲ略奪スルノ時機已ニ至レリト故ニ夜間攻撃ヲ行ヒ之ヲ奪ハント欲ス此作戰ハ縦ヒ前數日間砲撃セシ後之ヲ行フト雖モ頗ル冒險ノ所爲ト云ハサルヲ得ス夫レセントニコラス山



ノ地形タル其側面ハ險峻絶壁ニシテ南方ハ殆ント直立スルヲ大約二百尺西南及東南ハ其高サ南方ニ比スルニ稍々低シト雖モ崎嶇削立北方ハ傾斜ノ度著シト雖モ他ノ二者ニ比スレハ敵ニ近接スルヲ容易ナリ其山頂ハ既ニ天然ニ由テ防禦ノ具自ラ備リ露軍此ニ砲臺肩牆ヲ築キ輕壕ヲ設ケテ真ノ城郭ト爲セリ此作戰ニ於テシニレイマンノ部署ヲ定ムルヲ左ノ如シ

壯兵三千五百ノ一隊ハ露ノ前哨ヲ襲撃スルノ特任ヲ受ケ前衛ヲ組織ス各兵ハ其左腕ニ白色ノ臂章ヲ附シ以テ偵察ノ記號トス此隊ハ分テ三縱隊ト爲リ九月十七日午前三時三十分其第一縱隊ハ東南ヨリ第二縱隊ハ西南ヨリ第三縱隊ハ西方ヨリ同時ニセントニコラス山ヲ攀登シ而シテ將サニ山頂ニ達セントスルヤレゲーパシヤハ東方ヨリサリーパシヤハ南北ヨリペーセルバシヤハ西方ヨリ各々六大隊ヲ以テ同時ニ總侵撃ヲ行ヒ四大隊ヲ總豫備隊ト爲セリ

此夜攻者ニ便ニシテ諸隊ハ敵ニ秘匿シテ所定ノ陣地ヲ占領ス十六日午後十一時壯兵ハ其陣營ヲ去リ翌日午前三時三十分三縱隊各々露ノ堡壘前ニ達ス是時ニ方リ月影已ニ没シ唯ニ熾微タル星光ニ由テ僅ニセントニコラス山ヲ視ルヲ得ルノミ第一縱隊未タ敵堡ノ内岸基脚ニ達セサル時此方面ヲ守ル所ノ「ボドルスク」聯隊ノ第二第三中隊ハ之ヲ發見シ直ニ之ニ向テ射撃スト雖モ土兵ハ速ニ山頂ニ達スルヲ目的トシ一彈ヲ放タス續テ前進ス是ニ於テ露兵ハ銃劔ノ突撃ヲ行ヒ之ヲ扼止セントス然

レモ其兵員寡少ニシテ其功ヲ奏セス猛烈ノ接戦ヲ爲スノ後遂ニ退却セサルヲ得サルニ至レリ

此時ニ方リ「ジトミル」聯隊ノ一中隊ハ「ボドルスク」中隊ヲ援助センカ爲メ派遣セラレ次テ「ボルヒニー」聯隊ノ二中隊モ亦來テ直ニ力戦ス「ボドルスク」中隊ハ今此援兵ヲ得ルト雖モ山頂ニ達シ其堡壘内ニ依據セントスル土ノ壯兵ヲ扼止スル能ハサリキ露兵ハ是時ニ至ルマテ唯々第一縱隊ノ攻撃ヲ受ケルノミナリシモ今又第二縱隊ノ攻撃ヲ受ケタリ此縱隊ハセントニコラス山ニ近接スルニ最も險峻ニシテ殆ント跋涉スヘカラサル地点ヲ經過シ來リ露兵ノ不意ニ出ルヲ以テ毫モ覺知セラル、一ナク山頂ニ達スルヲ得タリ

是ヨリ三十分ノ後第三縱隊モ亦尋テ到ル露兵直ニ之ヲ覺リ銃劔ヲ以テ劇シク衝撃スルヲ三回ナリシト雖モ其功ヲ奏セス土兵終ニ勝ヲ制シ其略取シタル地ヲ保持スルヲ得タリ

日出ノ頃土ノ壯兵ハ已ニ其任務ヲ遂クルヲ以テ勝利ハ殆ント土軍ノ獲ル所トナルニ決シタルカ如シ是時ニ方リ其勝利ヲ全フセントセハ惟々ペーセルバシヤサリーパシヤレジーバシヤノ三隊同時ニ集中運動ヲ行ヒ前進スルヲ以テ足レリトス然ルニペーセルバシヤサリーパシヤノ二將ハ其運動ヲ同時ニ行ハスシテ前後ニ攻撃スルヲ以テ敵ノ破ル所ト爲リレジーバシヤハ其略地ヲ動カス土ノ壯兵ハ露ノ全軍ニ

對シ各個ニ動作スルヲ以テ其目的ヲ果ス能ハス既ニ略取シタル地ヲ拋棄シテ退却シ  
露兵是ニ由テ其土地ヲ回復スルヲ得タリ

攻撃隊ノ數多少ヲ問ハス必ス預備隊ヲ設ク可シ英國歩兵操典ニ曰ク預備隊ヲ必要ト  
セサル時機ハ最モ希ナリ然レモ此預備隊ハ第一線ニ在ル軍隊ノ恐慌ヲシテ之ニ波及セ  
シメサル爲メ適宜ニ之ヲ後方ニ置クヲ要トス

中佐フオンウイデルン曰ク夜間戦闘ニ於テハ軍隊其結合カヲ失ヒ易ク之ヲ回復セシム  
ルヲ甚タ難シ故ニ必ス預備隊ヲ置キ以テ襲撃隊ヲ扶援シ或ハ最初ノ勝利ヲ全カラシ  
ムヘシ抑々夜間襲撃ヲ行フニハ必スシモ兵數ノ優勢ヲ要セス故ニ第一線ニ在ル軍隊ノ  
兵員ヲ減シテ多數ノ預備隊ヲ設クルモ敢テ妨ケナカルヘシ

ポドール戰鬥ニ就テ考究スルハ最モ此原則ノ真理タルヲ證明スルニ足ル今フオンウイ  
デルンノ一千八百六十六年戰役ニ於ルポドール戰鬥ノ記事ヲ左ニ抄セン

普澳ノ  
役

澳普兩國開戰ノ始ニ方リ澳將クラム、ガラスノ軍團ハポヘムノ北方ニ在テ普將  
フレデリックシヤール親王カゴールリッソヨリ帥ヒ采ル縱隊ト普將ヘルワルツカド  
レズドヨリ率ヒ采ル縱隊トライセル河邊ノ地ニ於テ扼止ス可キノ命令ヲ受ケタリ  
六月二十六日フレデリックシヤール親王ハヘーベル及ヒチエールノウニ達セリ  
クラム、ガラスハ其受ケタル命令ニ由テポドール及ヒチエールノウノ兩地ヲ撤去シ其  
軍團ヲミコンヤングラツニ集合セリ六月二十六日午後チエールノウ及ヒミコンヤング

ラツノ兩地ヲ固守ス可キノ命令クラム、ガラスノ營ニ達ス此時クラム、ガラスハ  
フレデリックシヤール親王ノ己ニイセル河岸ニ達シタルヲ知ラスシテチエールノウ  
ノ地ヲ再ヒ占領スルノ準備ヲ爲スチエールノウ近傍ノ地形ハイセル河ヲ防禦スルニ  
便ナラサルヲ以テ其兵ヲ北方シフロウニ進メント欲シ二十六日午後前衛ヲスウ  
ガンノ高地ニ派遣シテ此地ヲ占領シポドールノ橋ヲ防守セシムクラム、ガラス以爲  
ラク敵兵チエールノウヲ占守スルモ其兵數寡ナカラント故ニ明日七日此河ヲ渡リ以テ  
其目的ヲ達セントセリ

普國第八師團ノ前衛ハ二十七日午後六時ニ於テポドール村ヲ占領スル澳兵僅ニ一二  
中隊ニ過キサルヲ知リ其司令官ハ直ニ獵兵二中隊ヲ發シテ之ニ向ハシメ澳兵ヲ  
ポドール村外ニ驅逐シ其橋ヲ奪ハシム八時三十分普ノ二中隊イセル河ノ南方ニ采  
テ獵兵ヲ援助シ又他ノ二中隊ハ豫備隊ト爲リテポドールノ地ヲ占領ス

此時澳ノボシヤセル旅團ハ命ヲ受ケスウ、ガンノ高地ヲ防禦セシニポドール橋既  
ニ敵手ニ落ツルノ報ヲ聞キ其將ボシヤセルハポドール橋ヲ回復セント欲シテ直ニ四  
大隊ヲ派遣ス大隊ポドールニ達スルヤ普兵ヲ攻撃シテ大ニ之ヲ破リ午後十一時ポド  
ール橋及ポドール村此村ハイセル河邊ニ在ラス  
其北方若干距離ノ處ニ在リヲ奪回シテ再ヒ之ヲ占領セリ是時ニ方リ普  
將ボーズ銃聲ヲ聞キ普兵ヲ援ケント欲シテ第三十一聯隊ノ一大隊及第七十一聯隊ノ  
一大隊ヲ率ヒ急ニヘーベルヲ發スヘーベルヨリ戰地ニ至ル僅ニ半里程ニ過キスシテ

其行進モ亦極メテ迅速ナリシ然レモ戰地ニ到レハ既ニポドール村ハ澳兵ノ占據スル所トナレリ是ニ於テ普將以爲ラクポドール村ヲ守備スル澳兵必ス寡少ナラン其援兵未タ至ラサル時ニ乘シ之ヲ攻撃セハ橋梁ヲ回復スルヲ難カラスト實ニ此橋ヲ占領スルハ普軍ニ於テ極メテ緊要ナルモノトス此夜月明ニシテ此作戰ヲ行フニ便ナリ普將ハ第三十一聯隊ノ一大隊ヲ率ヒ大道ニ由リポドール村ニ向ヒ第七十一聯隊ノ一大隊ハ西方ヨリ此村ヲ迂廻ス澳兵普將ボーズ縱隊ノ來ルヲ見之ヲ邊擊セントシテ來リ進ム是時普兵ハ駐止シテ敵ヲ距ル三十歩ニ到ルヲ待チ猛烈ニ一齊火撃ヲ行ヒ之ニ次クニ銃劔突撃ヲ以テシ大ニ澳兵ヲ破リ之ヲシテ村中ニ退却セシメタリ澳兵ハ更ニ復タ攻撃ヲ行フト雖モ其功ヲ奏セズ是時ニ方リ普ノ第七十一聯隊ノ一大隊ハ西方ヨリポドール村ニ來リ近ツクヲ以テ澳兵ハ正面及ヒ側面ヨリ敵兵ノ脅威スル所ト爲リポドール橋ニ向テ退却セリ是レ其橋ニ達スルノ通路ヲ絶タル、トテ恐レテナリ蓋シ澳兵モ亦普兵ノ如ク此橋ヲ占領スルヲ緊要トス此時ニ方リ第三十一及第七十一聯隊ノ「フュジリール」大隊戰場ニ達ス普將ボーズハ直ニ此新米ノ援兵ヲ用フルノ部署ヲ爲シ自ラ第三十一聯隊ノ「フュジリール」大隊ヲ帥ヒテポドール橋ニ向ヒ其兵ニ令シテ銃ヲ放タス極メテ靜肅ニ進マシメ第七十一聯隊ノ「フュジリール」大隊ヲ預備隊トシテ跟隨セシム普兵河岸ヲ距ル大約六十歩ノ處ニ到ルヤ敵兵之ニ向ヒ猛烈且有効ノ射撃ヲ爲ス故ニ普兵ハ駐止シテ之ニ應射セントス

將官ボーズハ其不可ナルヲ知ルト雖モ諸兵擾亂シ將校ノ號令ニ從ハズ是ニ於テ普將ハ前進セシメントスルモ到底及ハサルヲ知り自ラ銃ヲ携ヘ率先シテ橋上ニ突進ス第三十一聯隊ノ大隊ハ之カ爲メ其勢力ヲ得悉ク普將ニ跟隨シ銃劔ヲ以テ敵ヲ突撃ス澳兵此突撃ニ抵抗スル能ハス橋ヲ棄テ、イセル河ノ左岸ニ退キ普兵遂ニ橋梁ヲ占領ス後澳兵屢々之ヲ回復セントセシモ其功ヲ奏セズ午前一時戰全ク止ミタリ中佐フォンウイデルン此戰ニ就テ説ヲ爲シテ曰ク澳將ボイヤセルノ旅團橋ヲ回復セントシテ第一攻撃ヲ行ヒ時ハ既ニ夜ニ入レリポドール村ヲ占守セシ普兵六中隊ハ大ニ其隊伍ヲ紊亂シテ退キ復タ之ヲ戰闘ニ用フル能ハサルニ至ル其敗北ヲ回復シ全クポドール村ヲ奪回セシハ普將ボーズカ率ヒ來リタル援兵ニ大隊ノ力ナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ夜間戰闘ニ於テ一タヒ障地ヲ失フハ新銳軍隊ノ援助ニ由ルニ非サレハ大概之ヲ回復スルヲ能ハサルナリ普將ボーズハ既ニポドール村ヲ占領スル尚ホ進テイセルノ通路ヲ略取セサルヲ得ス然レモ其率フル所ノ軍隊ヲ以テ之ニ當ラシムルハ其任重キニ過クルニ似タリ幸ニシテ新ニ二大隊ノ援兵來リ加ハルヲ以テ其勝利ヲ全フスルヲ得タリ襲撃縱隊カ敵ニ覺知セラレスシテ之ヲ距ル五十歩或ハ六十歩ノ處ニ至ルマテ行進シ得ルヲホークキルヲオン及ボドールノ三戰ニ徵シテ明カナリ既ニ此距離ニ達スレハ攻者最モ危殆ナリトス何トナレハポドールニ於テ二回遭遇セシ如ク敵兵火撃ヲ開始シ

政者之カ爲メ毎四大ニ擾亂ヲ惹起スルヲ以テナリ

故ニ政者ハ甚タ接近シタル銃撃ヲ避クルヲ以テ緊要トス而シテ之ヲ避クルニハ勉メテ其行進ヲ隱匿シ敵ト觸接スルニ至ルマテ襲撃ノ利益ヲ保ツ可シ敵ヲシテ我カ動作ヲ覺知セシメサルノ警戒法數多ナルニ非ス且其法皆重要ナルヲ以テ一モ之ヲ怠ル可カラス今大尉ジョンソンノ示メシタル四項ノ警戒法ヲ左ニ掲ケン

其一 作戰計畫ハ唯々小數ノ人ニノミ之ヲ知ラシム可ク命令ハ實行スル時ニ非サレハ之ヲ傳フ可ラス

一千八百八十二年埃及戰誌著述者ノ言ニ曰クテル、エル、ケピル攻撃ノ成功ヲ得ントスルニハ第一奇襲ヲ行フヲ必要トシ第二軍ノ集中ヲ完成スルヲ必要トス故ニ此攻撃ハ全軍總テ集合スルノ夜ヲ以テ攻撃ノ時期ト定メ此時ニ至ルマテ總指揮官ノ計畫ヲ漏ラサス人ヲシテ毫モ此事ヲ知ラサラシム畢竟事ノ如何ヲ論セス我陣營中ニ傳播スル事ハ早晩敵ノ聞知スル所ト爲ルヲ慮リテナリ九月十二日日出頃總指揮官ハ師團長及旅團長ヲ召集シ敵陣ヲ望瞭シ得可キ高地ニ導キ始メテ其計畫シタル攻撃ノ策ヲ示セリ

英將オルセレイカ此ノ如キ速慮ヲ以テ其功ヲ奏セシハ前文已ニ記載スル所ナリ

其二 士卒ニ喫烟シ又燐寸ヲ燃スヲ嚴禁ス可シ  
大尉ジョンソン曰ク夜間光明ノ信号ヲ用フルハ弊害ナシトセス然レモ之ヲ敵ニ隱匿スルヲ得可シ但命令書ヲ讀ミ又ハ時計ヲ視ル爲メニ燐寸ヲ燃シ或ハ煙管ヲ以テ喫烟スル

カ如キハ然ラス而シテ兵卒ヲシテ能ク禁令ヲ遵守セシムルハ甚タ難シ故ニ之ヲ嚴禁スルハ殊ニ尉官ノ任ニ在リト

其三 襲撃ノ時ニ至ルマテ縱隊ノ諸兵ヲシテ充分沈靜ナラシム可シ

英國歩兵操典ニ曰ク將校ハ隊列中最モ沈靜ナルヲ勉ムヘシ故ニ士卒ハ何等ノ言ニ托スルモ談話シ或ハ口笛ヲ吹ク可ラス又襲撃ノ前叫聲ヲ發ス可ラス敵ニ接近セサルノ間ハ極メテ沈靜ニ直進ス可シト

此規則ノ外ニ出ツルモノハ伴撃ノ場合ニ於テ單ニ敵ヲ覺起セシムルヲ目的トスル時ニ在リ蓋シ此場合ニ於テハ敵ヲシテ我カ真ノ目的トスル攻撃点外ニ意ヲ轉セシムル爲メ特ニ喧噪ヲ要スレハナリ

一千八百八十二年バダジヨ襲撃ノ時ワルケル旅團ハ「サン、パンサン」稜堡ヲ攀登シテ將サニ城中ニ入ラントスル時一兵卒燐寸ノ地上ニ燃ルヲ視テ地雷ト叫フ政者此叫聲ヲ聞キ危険ニ陥ル可キノ恐怖ヲ生シ忽チ勇勢ヲ失ヒ列ヲ亂シテ「サン、パンサン」稜堡ニ退却シ從前幾多ノ障礙物ヲ超エ敵ノ劇射ヲ冒シ頗ル周察ナル注意ヲ以テ來政セシ結果ヲ唯此一聲ニ滅却セリ

「ウォエンヌイスポールニク」雜誌ニ曰ク一千八百七十七年十一月六日露兵土ノカルス城ヲ襲撃スルノ際アウツキープ縱隊ハ「チーム」堡ヲ略奪ス可キノ命ヲ受ケ沈靜ニ行進シテ之ヲ距ル六十歩ノ處ニ至リシニ堡壘中亦寂トシテ聲ナシ是ニ於テ政者以爲ラク此

拿破崙  
ノ戰

露土ノ  
戰

堡壘ハ我他縦隊ノ攻略スル所ト爲リ我兵ハ戰闘ノ後疲勞シテ眠ニ就キシナラント  
堡壘ノ守兵モ亦アウツキア縦隊ヲ認メ我兵ト做シテ意ニ分セス火撃スルナクシテ  
之ヲ近ツカシメタリ是時露ノ一兵卒高聲ニ談話シタルヲ以テ土兵ハ忽チ之ヲ覺知シ攻  
者ノ殆ント堡壘ニ接スルニ臨ミ之ニ向テ銃ヲ發シ露兵爲メニ死傷ヲ受クル甚タ多ク遂  
ニ此攻撃ヲ誤リタリ

縦隊途中ニ於テ敵哨ニ遭遇スル時ハ射撃セス又響聲ヲ發セシテ之ヲ奪フ可シ  
大尉ジョンソン曰ク一千七百六十年普魯士ノ太子ウエツセル城ヲ圍ム時クロスデルカ  
ンブニ陣スル佛兵ヲ襲ハント欲シテ十月十六日午後十時之ニ向テ行進セリ此時佛兵ハ  
其正面ノ前方カムベンノ寺院ニヒセルノ軍隊ヲ分遣シテ之ヲ哨兵ト爲セリ普兵ハ此  
哨所ヲ奪ハントシテ銃ヲ發スル數發佛ノ本隊之カ爲メニ敵兵ノ采リ襲フヲ知り普兵ハ  
爲ニ其襲撃ヲ誤リタリト

中佐フオンウツアルン曰ク未タ敵ニ近ツカサルノ間ハ隊列中極メテ沈靜ナラサルヘカ  
ラスト雖モ襲撃ヲ始メ諸兵喊聲ヲ發スルヤ直ニ全線上太鼓ヲ撃チ喇叭ヲ鳴ラス可シ  
ラオンノ戰ニ於テハ普軍ノ動作此ノ如シ將官ヨークノ副官ブランドブル伯ノ語ル所  
ニ據レハ此動作ハ佛兵ノ志氣ヲ挫折セシテ實ニ廣大ナリト云ヘリワートルロー戰ノ夜  
普兵佛兵ヲ追撃セシ時ニ於テモ亦此ノ如シ即チ普將グナイヌノウカシャル、ロアノ本  
道ニ由テ佛兵ヲ追躡スルノ時之ニ隨フ普ノ歩兵聯隊ハ次第ニ減少シテ數時ヲ經ルノ後

普將ニ從フ兵卒僅ニ若干人ヲ餘スニ至リ其中一人ノ敵手アリ是ニ於テ普將ハ其敵手ヲ  
馬ニ騎ラシメ之ニ命シテ進撃ノ譜ヲ撃タシメタリ此夜闇黒佛兵ハ追躡兵ノ多少ヲ知ル  
能ハス故ニ普將ハ此詭計ヲ以テ充分ニ敵ヲ欺キタリ

其四 攻兵決シテ射撃ヲ爲ス可カラヌ又銃ニ裝填ス可カラヌ唯々銃劍ノミ用フ可  
シ  
此原則ハ極メテ緊要ニシテ深ク注意スルノ價値アル者ナリ大尉ジョンソン曰ク是レ夜  
間攻戰ノ要訣ナリト實ニ然リ

此事ニ就キ研究シタル諸兵家ハ大概前述ノ時機ニ於テ火撃ヲ用フルヲ不可ナリトシ而  
シテ其說ノ基礎トスル所ヲ約言スレハ左ノ三原則ニ外ナラス

- 一 闇黒中ニ於ケル射撃ハ命中正確ナラス
- 二 射撃ヲ行ヘハ必ス行進ヲ遲滞シ且ツ往々退却運動ヲ惹起シ勢ヒ之ヲ駐ムルヲ得  
サルナリ
- 三 射撃ヲ行ヘハ其隊形ヲ露出シ敵ヲシテ其向フ所ヲ知ラシム

此說ノ真理タル所以ヲ証明スルノ例數多アリト雖モ一千八百七十七年露兵カカルス近  
傍ニ於テ行ヒタル夜間戰闘ハ余輩ノ目的ト爲ス所ノ主旨ニ最モ適切ナルヲ以テ殊ニ茲  
ニ其一二ヲ引証ス可シ

先ツ十一月十八日ノ襲撃前施シタル作戰ニ就テ略説セン

高加索ノ作戰隊ハアゲリアルニ於テ土將ムーケタルバシヤノ軍ヲ擊破シタル後一千八百七十七年十月十五日再ヒカルス城ヲ圍繞セリ露軍ハ戰略上ニ因リ直ニ此城ヲ略取スルヲ要シ且守兵ノ志氣振ハサルヲ以テ一舉之ヲ陷レ得ヘキニ似タリ然レモ露ノ本營ハ守兵ノ防禦カト兵員トノ故ヲ以テ急擊ヲ行フノ前矢ツ準備砲撃ヲ爲スニ決シ二十三日攻城砲ノ到達スルヲ以テ急ニ砲臺ノ建築ニ着手セリ是時採用シタル畫策ニ從ヘハ露兵ハ土ノ要塞中最モ堅固ナルスウバリカンリハヒーズバシヤカラグー等ノ諸堡ニ向テ專ラ射撃セサル可ラス土兵ハ其堡ノ前面ニ砲臺ヲ建設シ日々露兵ヲ射撃シ大ニ之ヲ窘感セリ又其前面ニ掩堡ヲ設ケ之ニ撤兵ヲ配置シ其前哨線ハ露兵カ砲臺ヲ設ケルニ便利ナル位置ヲ占領ス故ニ露兵ハ土兵ヲ撃チ之ヲ要塞ニ退縮セシメサルヲ得ス露將アルカソフハ此任ヲ受ケ十月二十五日午前三時三十分此作戰ヲ施行セリ

此時露將アルカソフカ督スル兵員ハ步兵五大隊騎兵二中隊砲薩克騎兵二中隊野砲十門騎砲兵二門ニシテ之ヲ土ノ砲臺ニ對シテ列スルヲ次ノ如シ步兵三大隊ハ中佐エシポア之ヲ率テ左方ニ占位シ野砲十門ハ中央ニ布列シ步兵二大隊ハ大佐ハディーブ之ヲ率テ右方ニ占位シ騎兵ハ梯隊ヲ成シテ兩側面ニ配布ス午前四時砲兵ハ火撃ヲ開始シ次テ步兵ハ前進シ砲兵ハ其位置ニ駐止ス步兵ニ縱隊ハ互ニ連絡セサルヲ以テ進ムニ從ヒ相隔離シハディーブノ縱隊ハ大ニ右方ニ偏シテ行進シ土ノ砲臺近傍ヲ經過シ

エシポアノ縱隊ハ正面ノ砲臺ニ近接シテ之ヲ略取シ之ヨリ遠ク進マシテ退却スヘキ命令ヲ受ケタリ是時ニ方リテハディーブノ縱隊ハ土ノ堡壘ノ前地ニ達セシニ忽チ其前方暗黒中ニ「ハヒーズバシヤ」堡ノアルヲ見ル此危急ノ狀勢ニ臨ミハディーブハ心少シモ臆セス直ニ策ヲ決シテ其兵ヲ甲乙二部ニ分チ其甲部ヲ五中隊ト爲シ乙部ヲ三中隊ト爲ス而シテ乙部ヲシテ城市ニ依ル所ノ側面ヲ掩護セシメ自ラ甲部ヲ率テ堡壘ヲ襲撃シ之ヲ略取セシカ援兵ノ来ル無キヲ以テ之ヲ持續スルヲ能ハス土兵ノ逆襲ヲ御クルヲ數回ノ後終ニ其堡壘ヲ棄テ其陣營ニ歸レリ

此記事ニ由テ之ヲ觀レハ露ノ二縱隊ハ互ニ連絡ナキカ爲メ遂ニ其一縱隊ヲシテ無益ノ死傷ヲ蒙ラシメタルヲ亦知ルヘキナリ若シ此二縱隊ヲシテ適當ノ處置ヲ取ラシメハ「ハヒーズバシヤ」堡ヲ棄ルヲ要セヌ果シテ然ラハ露兵ハ要塞中最モ重要ナル地点ヲ占有シ得タルナリ

此ノ如キ理由ナルカ故ニ種々ノ方法ヲ以テ二縱隊ノ連絡ヲ維持スルヲ極メテ肝要ナリ能ク此連絡ヲ維持スルキハ二縱隊互ニ相扶接スルヲ得ヘク又誤テ互ニ敵兵ト做スノ危害ヲ免ルヘシ此ノ如キノ危害ハ往々遭遇スル事ナリトス

前記ノ戰鬪ハ余輩ヲシテ又縱隊ノ連絡及夜間襲撃中砲兵使用ノ二事ヲ考究セサルヲ得サランム故ニ此二事ハ本論ノ枝葉ニ屬スト雖モ之ニ論及セサルヲ得ス

英國歩兵操典ニ於テ縱隊連絡ノ事ヲ論スル左ノ如シ

攻撃隊間ノ交通ト其隊ヲ編成スル諸單位間ノ交通ハ百方カヲ竭シテ之ヲ維持セサル可ラス蓋シ隊隊間ノ交通ハ乘馬將校ニ依ルニ非サレハ之ヲ安全ニスルヲ能ハサルモノ、如シ

此勤務ハ容易ナル者ニ非ス故ニ實驗アル將校ニ非サレハ之ヲ行フ能ハス是レテル、エ  
ル、ケ、ピ、ルニ於テ證明スル所ナリ

英國歩兵操典ニ曰ク茲ニ一軍ノ行進スルヤ極メテ靜肅ヲ維持シ四隣寂トシテ聲ナキ時ハ之ト相距ル若干「メートル」ノ地ニ在ルモ其行進ヲ推知スル能ハス而シテ此鎮靜ヨリ生スル各人ノ感覺ハ得テ名状スヘカラス命令ヲ傳フル爲メ派遣セラレタル參謀將校ハ闇黒中ニ在テハ各旅團ノ位置ニ就キ漠然タル指示ニ因リ行進スルニ過キス幸ニ其任務ヲ遂クルモ尚ホ行進ノ方向ノミニ由テ其方位ヲ定メ常ニ沈靜ノ中ニ於テ其歸路ヲ索メサルヲ得ス一隊隊ヲ距ル僅ニ百米突ノ處ニ於ルモ更ニ聲音ヲ聽カス惟々星光ノ外何物ヲモ視サル時ハ感覺過度ニ生スルヲ以テ微細ノ音響モ大響ノ如ク一二ノ騎兵モ兵數許多ノ軍隊ノ如ク想像セラル、ハ又怪シム可キニ非スト

今砲兵ノ事ニ就テ論ス可シ凡ソ砲兵ハ夜間ニ於テ特別ノ時機ニ非サレハ用フ可ラサルカ如シ

大尉ジョソン曰ク攻者其距離ヲ測知シ目標ヲ明視スルヲ得ル時ハ歩兵ノ近接スルヲ援護スル爲メ砲兵ヲ用フルヲ得可シ之ニ及スル場合ニ於テハ伴撃ヲ行フ時ノ外砲兵ヲ

利用スヘキ一價少ナリ

砲兵ハ隊隊ニ阻碍ヲ爲スト雖氏戰鬪延ヒテ晝間ニ及フ時ハ砲兵ノ隊隊中ニ在ルヲ必要トス此場合ニ於テハ砲兵ヲ隊隊ノ後尾ニ置キ或ハテル、エル、ケ、ピ、ルニ於ケルカ如ク列ニ一隊ト成スヘシ

「ウォエンヌイスポールニク」雜誌ニ曰ク砲兵ハ夜間行軍中隊隊ノ運動ヲ緩慢ナラシメ且之ヲ隱匿スルヲ容易ナラサルヲ以テ阻碍ヲ爲スト雖氏陣地ヲ略奪シテ之ヲ維持セントスル時ニ方リ敵ヲシテ日出後逆襲ヲ行フヲ能ハサラシメントニハ砲兵ノ現在スルヲ必要トスト

之ヲ要スルニ砲兵ハ攻戰中ハ殆ント之ヲ用ヒス唯々守戰ニ於テ必要トスヘシ

「ウォエンヌイスポールニク」雜誌ニ曰ク一千八百七十七年八月ル、ウ、シ、ウ、クノ軍カラ  
ロム河ニ近接ス土將メヘメットアリハ此河口ヲ安全ナラシメント欲シ露兵ノ右側前ニ在ルキリウセンノ高地ヲ攻撃シテ之ヲ略奪ス露ノ第十三軍團長ハ此陣地ノ緊要ナルヲ知リ夜間攻撃ヲ行フテ再ヒ此地ヲ占領セント決シ八月十一日ノ夜ヲ以テ之ヲ行ハン  
トシ歩兵七大隊騎兵二中隊大砲十八門ヲ以テ一隊隊ヲ編成シ歩兵ヲノ其高地ヲ攻撃シ  
之ヲ略奪セシム即チ砲兵八十一日ノ夕ア、イ、ア、ス、ラ、ル村附近ニ砲列ヲ布キ其砲撃ヲ以テ  
歩兵ノ攻撃ヲ準備シ歩兵之ニ因テ前進シ敵兵支フル能ハス此高地ヲ撤去ス然レ氏砲兵  
ハ進テ之ヲ占領セサリキ是時土兵ハ援兵ノ至ルニ遇ヒ露ノ歩兵ヲ扼止シ後夕前進スル

一能ハサラシメ日出ニ至リ遂ニ之ヲ退ケ高地ヲ奪回セリ此敗戦ハ專ラ露ノ砲兵カ進テ高地ヲ占領セサリシニ起因ス蓋シ砲兵ハ歩兵ノ高地ヲ奪フヤ直ニ進テ此ニ布陣セサル可ラス何トナレハアイアスラル村附近ニ於テ占領シタル陣地ハ敵ノ歩兵ニ向ヒ有効ナル砲撃ヲ爲ス能ハサルヲ以テナリ

今復タカルス城攻撃ノ事ニ就テ之ヲ説ク可シ

攻城隊ハ歩兵四十一大隊騎兵五十三中隊野砲一百四十六門ヲ以テ編成シ十一月初旬ニ於テ攻圍ヲ始メ十一日攻城砲臺ヨリ砲撃ヲ開始ス露兵ハ一舉此城ヲ攻略スルノ利アルヲ以テ夜間急襲ヲナス一ニ決シ十一月十七日月明ノ夜ニ乘シテ之ヲ行ハントス蓋シ月夜ナルトキハ縦隊行進スルニ方リ暗夜ヨリモ尚ホ其勞ノ少キヲ以テナリ

此作戰ニ與カル可キ軍隊ハ分テ七縦隊ト爲シ五縦隊ヲ本攻隊トシ二縦隊ヲシテ虚撃隊トシ五千ノヲ以テ預備隊ト爲ス總指揮官大公爵ミセルハ令ヲ諸隊ニ傳ヘ砲兵ヲシテ縦隊ニ跟随セシメス預備隊ノ近傍ニ止リ日出ヲ俟テ攻撃ニ與ラシメ騎兵ヲシテ城塞ヲ圍繞スル道路上ニ派遣セシム諸隊ハ午後八時運動ヲ始メ隊列中極メテ沈靜ナラシメ士卒ニ談話喫烟ヲ禁シタリ

縦隊ノ編成ハ左ノ如シ

第一縦隊ハ歩兵六大隊大砲十六門ヲ以テ編成シ少將コマロフ之ヲ率ヒ「チーム」堡ヲ略取ス可キ者トス

第二縦隊ハ歩兵三大隊ニシテ中佐メリコフ之ヲ率ヒ「スウバリ」堡ヲ以テ攻撃ノ目的ト爲ス

第三第四ノ二縦隊ハ各々歩兵五大隊砲兵一中隊ヲ以テ編成シ少將グラッペ侯及大佐ボシキヌ之ヲ指揮シ與ニ「カンリ」堡ヲ攻撃ス可キ者トス

第五縦隊ハ歩兵五大隊砲兵一中隊ヲ以テ編成シ少將アルカフア之ヲ率ヒ「ハビーズ」ハシヤ」堡ヲ略奪ス可キモノトス

此五縦隊ニ歩兵六大隊大砲八門ノ預備隊ヲ附ス

第六縦隊ハ歩兵五大隊大砲二十四門ニシテ大佐チュレミシノフ之ヲ率ヒ「ラズ、テベシ」堡及「ムウクリス」堡ニ向テ虚撃ヲ行フ可キ者トス

第七縦隊ハ歩兵六大隊大砲二十四門ニシテ少將リドセアスキ之ヲ率ヒ「アラア」堡及「カラダ」堡ニ對シテ虚撃ヲ行フヘキ者トス

總預備隊ハ歩兵三大隊大砲十六門ヲ以テ編成ス

各縦隊ニ隨行ス可キ者ハ對壕手、信號手、砲手及傳令ノ喀薩克兵ニシテ對壕手ハ爆烈藥包ヲ携ヘ砲手ハ鉗ト鎚トヲ携帶ス

騎兵ヲ分テ三縦隊ト爲ス左ノ如シ

第一縦隊ハ二十八中隊砲六門ニシテ將官セルミチーフ之ヲ率ヒチヤクマウール村ニ陣シテ山ニ通スル道路ヲ監視シ第六第七二縦隊間ノ連絡ヲ保持ス



第二枝隊ハ三十四中隊ニシテ將官セルバトフ公之ヲ率ヒボズガラ村ノ近傍ニ陣シ  
エルゼルム道路ヲ監視ス

第三枝隊ハ十八中隊大砲六門ニシテ中佐チヤフシヤバドス之ヲ率ヒキチキオイ橋ヲ  
守備ス

攻撃ハ午後九時稍々過ル頃ニ之ヲ開始シ其結局勝利ヲ獲タリト雖氏各縦隊ノ勝利各  
々一様ナラス

第一縦隊長少將コマロアハ其本隊ヲ以テ「チーム」堡ニ向ヒ中佐メリコフヲ接ケ兼テ  
「トーマス」堡ニ向テ陽動ヲ行フヘキ命ヲ受ク中佐メリコフハ初メ「スウバリ」堡ヲ攻  
略シ次テカルス河ヲ渡リ「チーム」堡ヲ攻撃スヘキモノトス然ルニコマロアノ縦隊ハ  
闇黒中其方位ヲ誤リ路ニ迷ヒ「チーム」堡ニ向ハスシテ「トーマス」堡ヲ攻撃シ許多ノ  
死傷ヲ蒙リ遂ニ敵ノ擊退スル所トナレリ是ニ於テ少將コマロアハ更ニ其軍隊ヲ整頓  
シ「チーム」堡ニ向ヒ之ヲ攻撃スト雖氏時既ニ遅ク中佐メリコフノ縦隊已ニ此地ヲ去  
リ與ニカヲ戮ス能ハサルヲ以テ役タ大ニ死傷ヲ蒙リ此地ヲ退却セリ然レ氏中佐メリ  
コフハ能ク其任務ヲ盡セリ即「スウバリ」堡ヲ攻テ之ヲ略取スル後「チーム」堡ニ近迫  
スト雖氏敵堡ノ銃撃極メテ劇烈ニシテ之ニ當リ雖ク且ツ最モ必要ナル少將コマロア  
ノ援助ヲ得サルヲ以テ已ヲ得ス「スウバリ」堡ニ退却セリ此ニ四ノ敗戦ハ夜間道路ヲ  
異ニシテ攻撃ヲ行フニ縦隊ノ運動ヲ一致セシムルノ困難ナルヲ証スルニ足ルヘシ

第三第四ノ二縦隊ハ前者ニ比スレハ利アリシト雖氏其功ヲ奏スルニ當テ死傷ヲ蒙ル  
ト夥多ナリ此ニ二縦隊ハ午後十時「カンリ」堡ノ前面ニ達スボジヤキー又縦隊ハ「セバ  
ストポール」聯隊ノ三大隊「イメレチー」聯隊ノ二大隊第卅八旅團ノ砲兵第三中隊  
高加索對壕兵半中隊ヲ以テ編成シ右方ヨリ行進ス其先頭ハ搜索兵ノ一枝隊ニ「セ  
バストポール」聯隊ノ一大隊密集列ヲ以テ之ニ次キ「ヨリ」後方百五十歩ヲ隔テ「イメ  
レチー」聯隊ノ第二大隊二線ト爲リテ之ニ次キ「セバストポール」聯隊ノ二大隊互ニ  
百五十歩ノ間隔ヲ爲シ密集列ヲ以テ亦之ニ次キ「イメレチー」聯隊ノ第一大隊ハ預備  
隊トナレリ諸兵靜肅順次ヲ正フシテ行進セシニ忽チ其道ヲ誤リシヲ覺知セリ搜索兵  
ハ能ク地形ヲ諳知スルヲ以テ直ニ攻撃点ニ向ヒシト雖氏本隊トノ連絡十分ナラサル  
ヲ以テ本隊ハ道ヲ誤ルニ至レリ大佐ボジヤキー又ハ時機ニ後レントヲ恐レ其縦隊ヲ  
シテ更互ニ驅歩ト速歩ヲ爲シテ進マシム故ヲ以テ諸兵大ニ疲勞シテ列伍ニ錯雜ヲ起  
シ最初靜肅沈着ナリシモ後ニハ人々不安ノ念ヲ生シ志氣爲メニ挫折セリ大佐ボジヤ  
キー又ハ逸メテ良路ヲ求ムレ氏之ヲ得ル能ハス其縦隊ハ大ニ右方ニ偏行シテ「カン  
リ」堡ノ東ニ在ル「ハジーハシヤ」砲臺ヲ距ル三四百歩ノ地ニ至リ地雷ノ爆發ニ遇ヘ  
リ此爆發ハ幸ニシテ死傷ヲ蒙ル者ナシト雖氏土兵ハ之ニ由テ敵ノ襲ヒ来ルヲ知り直  
ニ火撃ヲ開始セリ露兵ハ其目的タル「カンリ」堡ニ近ツカント欲シ土兵ノ火撃ニ對シ  
テ應射セス尚ホ前進セリ此時ニ方リ搜索兵ハ「カンリ」堡ニ達ノ周圍ノ對壕ヲ略取セ

シト雖氏後接ノ兵ナキヲ以テ本堡ヲ奪フ一能ハス是ニ於テ搜索兵ノ司令官ハ後接ノ到ラサルヲ見人ヲ遣シ之ヲ索ムレ氏得ス因テ其攻略シタル土地ヲ保持スルニ止リ敵ヲノ本堡ヨリ退却セシムル能ハス是時其縱隊ハ尚ホ驅歩シ或ハ速歩ノ闇黒中ニ彷徨シ大佐ボジヤキ一ヲ終ニ傷ヲ蒙リ縱隊ハ其長ヲ失ヒ爲メニ駐止シテ進マズ隊列中大ニ紊亂ヲ生シ漸次劇烈ナル敵火ニ暴露シ諸兵其沈勇ヲ失ヒ將校ノ命ヲ俟タヌノ火撃ヲ開始セリ此錯亂ヲ制止シ復タヒ隊列ヲ整頓シテ更ニ前進セシムルニハ多ク時間ヲ費サ、ル可ラス故ヲ以テ「カンリ」堡ニ至リ第三縱隊ヲ救助スルニ遅延セリ是ヲ以テ「カンリ」堡周圍ノ戰鬪ハ大抵第三縱隊ノミ之ニ當リ此堡ハ猛烈ナル抗抵ノ後遂ニ露兵ノ有ニ歸セリ

第五縱隊ハ「ハヒーズバシヤ」堡ヲ攻撃スルノ命ヲ受ケ之カ指揮官タル少將アルカソフハ其兵ヲ分テ二隊ト爲シ其一隊即三大隊ハ大佐ハダイーフノ指揮ニ屬シ之ヲシテ東北ヨリ「ハヒーズバシヤ」堡ニ近接セシメ其一隊即二大隊ハ少佐ウールバンスキノ指揮ニ屬シ「ハヒーズバシヤ」堡ノ南面ヨリ之ヲ攻撃セシメ二大隊ヲ以テ豫備隊ト爲シアルカソフ自ラ之ヲ指揮ス然ルニ大佐ハダイーフハ道ヲ誤リ大ニ右方ニ偏行シ塹壕ノ前面ニ出ツ土兵塹壕中ヨリ劇ク銃ヲ發シテ之ヲ防ク露兵之ヲ奪ハント欲シ奮戰シテ略取ス然レ氏露兵速ク敵兵ヲ追躡シタルヲ以テ少佐ウールバンスキトノ距離ヲシテ益々速大ナラシム故ニウールバンスキハ孤勢トナリ特リ「ハヒーズバシヤ」堡ヲ

奪フ一能ハス之ニ因テ援兵ヲ將官アルカソフニ請フアルカソフ乃チ預備隊ヲ進メテ之ヲ援ケカヲ戮セテ「ハヒーズバシヤ」堡ヲ攻メ暫時ノ後之ヲ奪略セリ此一例ハ預備隊ノ必要ナルヲ證スルニ足ルヘシ

第六第七ノ二縱隊ハ上文ニ云ヘルカ如ク真ノ攻撃ヲ行フ一ナク城市ノ北方ニ向テ虚撃ヲ爲ス可キ者ナリシニ此預定ノ策ヲ施ス一能ハス他ノ縱隊ト均シク敵ト劇戰スルニ至レリ此二縱隊ハ午後九時行進ヲ始メ大佐チレミシノブハ第六縱隊ヲ率ヒ「ラズテベシ」堡ニ向テ行進シ前面ノ塹壕ヲ攻略セシト雖氏其兵卒ハ闇黒ニ乘シ將校ノ監視ヲ脱シ凍氷凝結セシ胸壁ヲ攀登シ敵ト相距ル最近ノ地ニ於テ戰フ一數時ニ至ル時ニ土兵援兵ノ至ルニ會ヒ大ニ露兵ヲ擊破シ之ヲシテ終ニ「ラズテベシ」堡ヲ撤去セシムルニ至ラシム此夜露兵ハ其周圍ノ塹壕中ニ竄匿シ翌日ヲ俟テ退却セリ是時ニ方リ少將リドセブスキハ其砲兵ヲ以テ「アラブ」堡ト「カラダ」堡ニ砲火ヲ開始シ大佐ハダイーフカ「カラダ」堡ノ攻撃ヲ援助ス既ニシテ「カラダ」堡ノ略取ヲ聞クヤ其カヲ轉シテ「アラブ」堡ヲ攻撃シテ遂ニ之ヲ略取セリ

大尉ホジエー曰クカルス城ノ攻撃ハ戰史中希有ノ作戰ナリト余輩ハ此攻撃ニ由テ夜間戰鬪ノ戰術ニ就キ一ニノ考案ヲ下シテ以テ本編ヲ完全スルヲ得可シ今再ヒ射撃ノ事ヲ論セントス蓋シ射撃ナルモノハ種々ノ形勢ニ因テ考覈スルヲ要スレハナリ凡ソ攻撃ハ敵ニ近接スルニ非サレハ火撃ヲ行ハサルヲ通則トス

「ウオエンヌイスポールニク」雜誌ニ曰ク攻撃隊其戰鬥序列ヲ取ル時ハ速ニ攻撃点ニ向テ進ミ襲撃ノ準備トシテ一齊火撃ヲ行ヒ以テ敵ヲ襲撃シ之ヲシテ益々擾亂ヲ起サシム可シ然レモ準備期ハ甚タ短キカ故ニ敵ト相接シテ唯々一四ノ齊發ヲ行ヒ直ニ之ニ次クニ銃劍突撃ヲ以テス可シ攻者射撃ノ爲メ駐止スルハ甚タ害アリ攻者敵ノ覺知スル所ト爲リ其火撃ニ暴露スルハ急速ニ行進シテ敵ト接戦ス可シ我ヨリ火撃ヲ開始スルハ躊躇ノ徵候ニシテ不利ノ基トナルハ「カルス」城攻撃中ボジヤキー又縱隊ニ徵シテ知ル可キナリ

「ウオエンヌイスポールニク」雜誌ニ曰ク夜間ハ虚撃ヲ行フ可キ時或ハ一時防禦ヲ爲ス可キ時ニ非サレハ火撃ス可ラス且ツ此場合ニ於テモ獨リ一齊火撃ノミヲ行フ可シ前條説ク所ニ據レハ守戦ハ攻戦ト其趣ヲ異ニシ守戦ニ在テハ火撃ヲ用フルヲ禁セサルカ如シ是レ特リ露西亞「ウオエンヌイスポールニク」雜誌ノミノ説ク所ニ非サルナリ大尉ジョンソン曰ク戦史ヲ閱スルニ守戦ニ於テハ大概火撃ヲ用フルヲ見ル例之ハギンチンポドールアールゼービルエアララダグンジュータンモンターニバルトサバナックカラガッチカルス等ノ諸戦ニ於ルカ如シ是レ特ニ近時ノ戰爭ニ於テ見ル所ノ例ヲ舉ルノミ守戦ニ於テモ攻戦ニ於ケルカ如ク一齊火撃ヲ用フルヲ可トス此火撃ハ他者ニ比スレハ其指揮容易ニシテ敵ノ志氣ニ其影響ヲ及ホス一モ亦著大ナレハナリ大尉ルードジンスキ曰ク隨意火撃ハ將校之ヲ監視スル能ハサルヲ以テ全ク之ヲ廢棄セ

サルヲ得ス夜間前哨ヨリ發火スルハ敵火ト誤リ之ニ向テ射撃セシ例勝テ數フ可ラヌ

余輩ハ此火撃ノ事ニ就テ尚ホ一齊火撃ヲ稱賛スルスコベルフ及アリヤルモンニ將官ノ説ヲ掲ケテ之ヲ証明セント欲スト雖モ既ニ前條ニ記載セシ所ヲ以テ火撃ノ用法ヲ証スルニ足ルト信スルカ故ニ復タ爰ニ之ヲ贊セス

カルス城攻撃ノ時露兵ノ採用セシ隊形ハ如何ナル隊形ナリシヤハ既ニ前條ニ於テ見ル所ニシテ之ヲ約言スレハ密聚隊形ナリ「ウオエンヌイスポールニク」雜誌ハ此隊形ノ利アルヲ証明スルヲ左ノ如シ

歩兵ハ夜間專ラ銃劍ヲ以テ動作ス闇黒及敵兵隊伍ノ紊亂ハ其射撃ノ命中ヲ減シ從テ攻者敵火ノ傷害ヲ蒙ルヲ少シ是故ニ中隊ヲシテ能ク其結合カヲ保持セシメン爲メ小隊縱隊ニ編成ス可シ然レモ接戦ヲ爲サント欲スルハ排開中隊ヲ以テ敵ニ近接スルヲ可トス何トナレハ此隊形ハ最も多數ノ兵ヲシテ接戦セシムルヲ得ルヲ以テナリ中隊ハ火撃ニ由テ攻撃ヲ準備スルヲ得ス故ニ散兵ヲ前方ニ差遣ス可ラス各中隊ハ斥候隊ヲ以テ其正面ヲ掩護シ敵ノ歩哨ヲ擒獲シ中隊ノ通路ヲ開カシム斥候隊ノ疎密ハ土地ノ形勢ト障礙物ニ從テ各々同シカラス斥候ノ間隔ハ互ニ相見ルヲ程度トシ其兵員ハ二人ヨリ成リ彼是相救助セシム斥候隊ハ之ニ次ク所ノ梯隊ヨリ稍々延長シ常ニ之ヲ展眸シ得ルヲ度トシテ相近接スヘシ

埃及ノ役

一大隊中各中隊ハ前後ニ排開シテ密聚ス可シ此隊形ニ於テ各中隊ハ能ク集團シ行進セシムルヲ容易ニシテ且ツ敵火ヲ受クル僅少ナリ一千八百七十七年「カルス」城ノ攻撃其他露土戰役中夜間戰闘ニ於テ露兵ノ採用セシハ皆此隊形ナリトス

英軍カテル、エル、ケピルニ於テ適用セシ隊形モ亦均シク密聚隊形トス

一千八百八十二年埃及戰史ノ著者ハ此事ニ就テ左ノ如ク論說セリ

將官ウオルセレイハ各大隊ヲ二線ト爲シテ攻撃シ行進隊形ヲ戰闘隊形ト同一ナラシメタルハ畢竟夜間ニ運動ヲ行フヲ欲セサリシナリ第二師團ノ先頭タル蘇格蘭旅團中ノ各大隊ハ排開間隔ヲ以テ二線ニ併列シ各大隊中右方半大隊ノ二中隊ト左方半大隊ノ二中隊トヲ以テ二線ト爲ス是レ戰闘中互ニ混淆スル者ハ同半大隊中ノ二中隊ニ過キサテシヨヲ欲シテナリ且ツ旅團ノ敵ニ近接スルモ亦此隊形ヲ以テセリ

第一師ノ團先頭ニ在テ行進スル所ノ將官ウオリスハ敵火ノ危険界ニ達スルヤ其大隊ヲ一線ニ排開シ此隊形ヲ以テ行進セントシタリシニ事ノ行フ可ラサルヲ覺リ其各中隊ニ命シテ四伍ノ縱隊ニ分解セシム己ニシテ攻撃期ノ迫ルニ至リ更ニ其大隊ヲ展開シテ攻撃ノ隊形ヲ取レリ

余輩ハ此種々ノ攻撃法ノ利害ニ就キ茲ニ之ヲ論究セスト雖氏以上記載スル所ニ據テ之ヲ考フレハ外國人カ最良ナルモノト考察スルハ密聚隊形ナルト諸兵家カ攻撃ニ於テ行

進スル時發射セサルノ必要ナルトニ在リトス

今此書ノ終ニ臨ミ戰闘中騎兵ノ任務ニ就テ略說ス可シ

ラオンノ戰闘及カルス城ノ攻撃ハ騎兵ヲ用フルノ二法ヲ示セリラオンニ於ケル「ヂーテン」ノ騎兵ハ戰闘中緊要ノ任務ニ當リ此戰闘ノ勝利ニ與テ大ニ力アリ然ラハ則チ夜間戰闘ニ騎兵ヲ用ヒサルノ説ハ其不可ナルヲ知ルヘシ

中佐フォンウ、デルン曰ク夜間戰闘中騎兵ノ任務ハ其區域甚タ狹隘ナリト雖氏時機ノ宜キヲ得ハ之ヲ用ヒテ功ヲ奏スルヲ得然レ氏騎兵ノ多數ヲシテ一時ニ戰闘ニ與ラシメサルトニ注意ス可シ騎兵ノ任務ハ殊ニ敵ノ退路ヲ斷チ或ハ之ヲ追躡スルニ在リ

一千八百七十七年「カルス」城ノ周圍ニ露ノ騎兵中隊ヲ配置セシハ敵ノ退路ヲ斷チ或ハ之ヲ追躡セント欲シテナリ

「ウォエンヌイズボールニク」雜誌ニ曰ク戰闘中騎兵ノ不意ニ現出スルハ敵兵ノ力爲ニ志氣ヲ沮喪スルヲ古今ノ戰史其例少カラス

大尉ジョンソン曰ク騎兵ヲ別隊ト爲シテ之ヲ用フルハ貴重ノ任務ヲ盡スル屢々之ヲリ其騎兵敵ニ對シ有形ノ結果ヲ生スルヲ僅少ナル時ト雖氏尚ホ志氣ニ影響ヲ及スル實ニ大ナリビラレピール戰ノ夜フレアリックシャルノ親王カ騎兵ヲ以テ行ヒシ襲撃ハ即チ其一例ナリ

今茲ニ數例ヲ掲ケテ此說ヲ證明ス可シ即チ一千七百九十三年ニ於テ大將ニコフリング

ハ夜間ナリヘノ佛軍會營ニ向テ屢々攻撃ヲ行ヒ勝利ヲ獲タリ一千八百十三年リニツエ  
 ンニ於テ普魯士ノ龍騎兵ハ軍ノ退卻ヲ掩護シテ其夕利益ヲ與ヘタリ亞米利加南北戰爭  
 ニ於テ騎兵夜間襲撃ヲ行ヒシハ大尉ジョンソンノ夜間攻撃論ニ之ヲ詳悉セリ一千八  
 百七十七年ニ於テ露西亞騎兵ハ夜間ニ於テ頗ル適切ナル任務ヲ實行セリ  
 余輩ハ今筆ヲ擱ントスルニ際シ更ニ一言セントス抑々此書タル夜間作戰ノ複雜ナル間  
 題ニ就キ固ヨリ其盛興ヲ極メタリト言フ可ラス然レモ今日ニ至ルマテ夜間ニ於ル行軍  
 警戒勤務、戰闘ノ事ニ就テ叙述シタル諸説ヲ輯集シ又此目的ニ関シ世人ノ是認シタル  
 原則ヲ證明スル數例ヲ掲載シタリ以テ今日外國軍人社會カ此夜間作戰ニ就キ懐ク所ノ  
 考案如何ヲ知ルニ足ルヘシ

11/35  
 夜間作戰論終

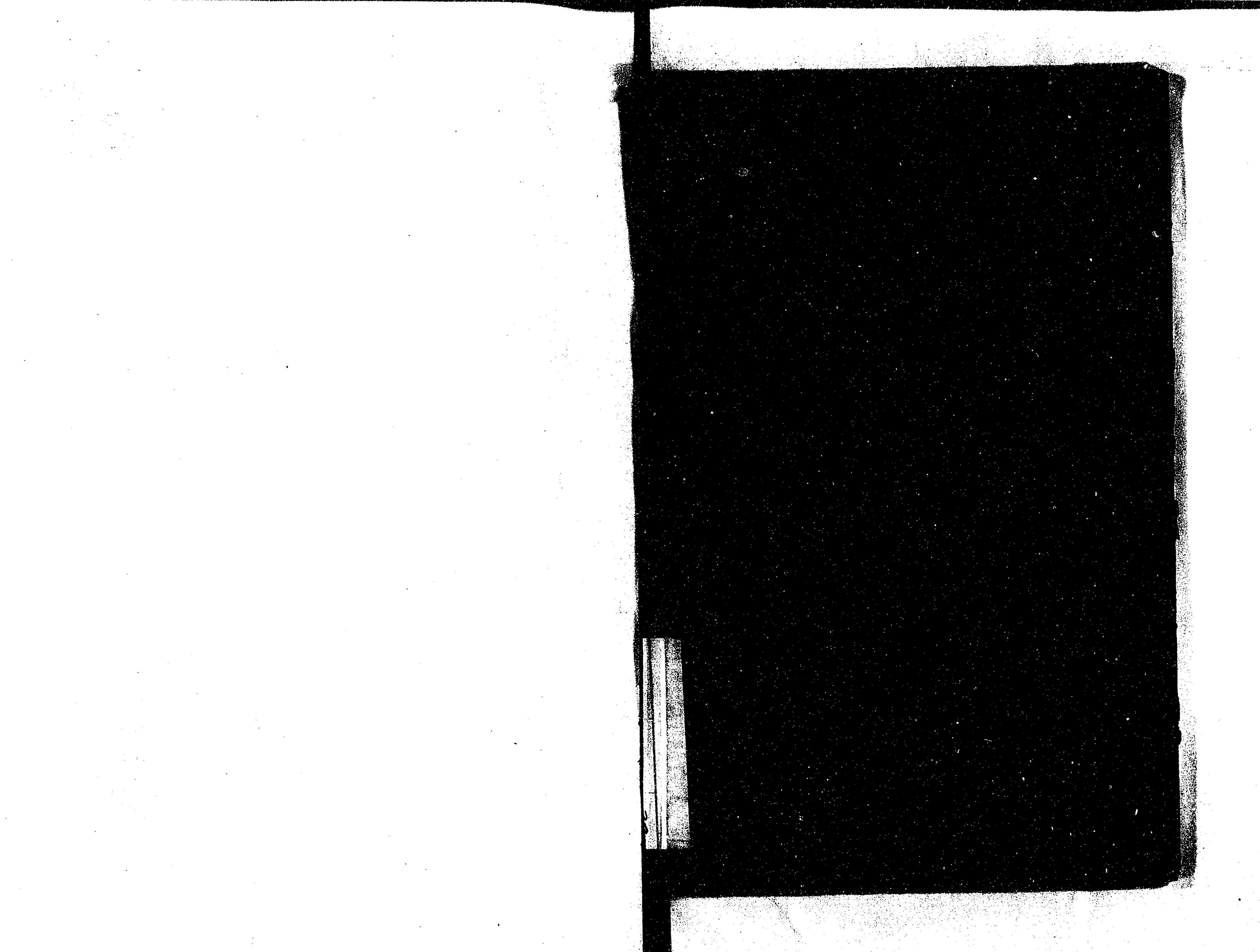
偕行社記事第四十三号附録正誤

頁	行	誤	正
七	九	緩慢	緩慢
十	五	西岸	兩岸
十四	五	二時三十分	二時三十八分
十五	一	配置センカ	配置セシカ
四十八	十二	グラム、ガラス	グラム、ガラス
六十八	十一	第一師ノ團	第一師團ノ
六十九	二	間戰闘	夜間戰闘

ハ夜間ナリヘノ佛軍舎營ニ向テ屢々攻撃ヲ行ヒ勝利ヲ獲タリ一千八百十三年リユツエ  
 ンニ於テ普魯士ノ龍騎兵ハ軍ノ退却ヲ掩護シテ其夕利益ヲ與ヘタリ亞米利加南北戦争  
 ニ於テ騎兵夜間襲撃ヲ行ヒシヲハ大尉ジョンソンノ夜間攻撃論ニ之ヲ詳悉セリ一千八  
 百七十七年ニ於テ露西亞騎兵ハ夜間ニ於テ頗ル適切ナル任務ヲ實行セリ  
 余輩ハ今筆ヲ擱ントスルニ際シ更ニ一言セントス抑々此書タル夜間作戦ノ複雑ナル問  
 題ニ就キ固ヨリ其盛興ヲ極メタリト言フ可ラス然レモ今日ニ至ルマテ夜間ニ於ル行軍  
 警戒勤務、戦闘ノ事ニ就テ叙述シタル諸説ヲ輯集シ又此目的ニ関シ世人ノ是認シタル  
 原則ヲ證明スル數例ヲ掲載シタリ以テ今日外國軍人社會カ此夜間作戦ニ就キ懐ク所ノ  
 考察如何ヲ知ルニ足ルヘシ

夜間作戦論終

40
32





40  
32

051978-000-1

40-32

夜間作戰論

仏国陸軍参謀局/編

M23

BFB-0902



40  
32

[Blank white label]